

日医総研 リサーチエッセイ

ラグビーワールドカップ 2019 における

医療体制上の課題に関する調査

— 東京オリンピック・パラリンピック 2020 に向けて —

No. 86

2020 年 7 月 28 日

日本医師会総合政策研究機構
出口真弓・王子野麻代

ラグビーワールドカップ 2019 における医療体制上の課題に関する調査

— 東京オリンピック・パラリンピック 2020 に向けて —

日本医師会総合政策研究機構 主任研究員 出口 真弓
主任研究員 王子野麻代

キーワード

- ◆ラグビーワールドカップ 2019 日本大会◆東京オリンピック・パラリンピック 2020
- ◆マスギャザリング ◆医師会 ◆自治体 ◆CBRNE テロ災害対策
- ◆感染症対策 ◆医師派遣

ポイント

◆ラグビーワールドカップ 2019 日本大会（RWC2019）の開催地であった 26 医師会を対象に大会期間中の医療体制上の課題等に関する検証調査を行った（回答：19 医師会）。

このうち、東京オリンピック・パラリンピック 2020（オリパラ 2020）の開催予定地である 8 医師会については、オリパラ 2020 への医師会の関与状況についても尋ねた。

◆RWC 組織委員会や開催自治体等から、何らかの協力依頼を受けた医師会は約 8 割であった。依頼内容は「大会救護所への医師派遣」、「多数傷病者発生時の医療支援」が最も多かった。依頼を受けた医師会はおおむね全面的に協力を行った。

◆大会期間中、観客用救護所に医師を派遣した医師会は 42.1%（8 医師会）で、派遣先は競技場外のみが 6 割以上であった。日当、交通費の支給が行われた医師会は 75.0% で、支給元はいずれも開催自治体からが多かった。

◆医師会への医療提供体制の情報提供について、開催自治体からは「積極的に十分であった」という回答は 5 割以上であったが、組織委員会からについては 4 割未満であった。大会への医師派遣の有無でみても、組織委員会から十分な情報提供があったとする割合はいずれも 4 割未満で変わらず、組織委員会との情報共有体制の構築の難しさがうかがわれた。

◆大規模イベント医療・救護ガイドブックの作成、CBRNE テロ対策の研修会やマスギャザリングセミナーの開催、ワンストップ窓口の設置、SMS による情報提供等、大会期間中の日本医師会の取り組みは、おおむね高評価を得、今後の取り組みの継続を望む声も

みられた。

◆大会に医療チームを派遣したり自身が参加することの不安については、「外国人対応」「組織委、自治体との関係」、「感染症対策」「マスギャザリングでの事故等」が挙げられた。

◆東京オリンピック・パラリンピック 2020（オリパラ 2020）の関与状況について回答があった 5 医師会のうち、4 医師会はオリパラ 2020 開催に関する協議体（推進委員会、準備委員会など）に参加していた。

◆組織委員会や開催自治体等からの協力依頼については 5 医師会全てが受けており、「大会救護所への医師派遣」が最も多かった。

◆2020 年 2 月中旬時点で、会場付近の救護所に医師を派遣することが決定・派遣予定の医師会は 4 医師会である。医療チームを派遣、もしくは自身が参加するにあたって不安や心配に感じることにについては、人員体制の確保について意見が多く寄せられた。日本医師会への要望については、提供する医療に見合う対価を求める意見がみられた。

◆今後の課題については、組織委員会や自治体との関係構築、より充実した研修プログラムの実施と継続、感染症対策や災害医療の受け入れ体制の整備等が挙げられた。

目次

1. はじめに.....	4
2. 調査の概要.....	5
2.1 調査目的.....	5
2.2 調査期間.....	5
2.3 調査対象.....	5
2.4 調査方法.....	5
2.5 調査項目.....	6
3. 調査結果.....	7
3.1 RWC2019 日本大会における医師会の活動結果.....	7
3.2 東京オリンピック・パラリンピック 2020（オリパラ 2020）への医師会の関与状況	25
4. まとめと考察.....	29
5. 謝辞.....	31
6. 参考資料.....	32
6.1 ラグビーワールドカップ 2019 開催地一覧.....	32
6.2 ラグビーワールドカップ 2019 に関する会議体と医師会の参画状況.....	33
6.3 単純集計表.....	34
6.4 調査票.....	50

1. はじめに

日本医師会では、2019 年度より「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」（以下、「RWC2019」）と「東京オリンピック・パラリンピック 2020」（以下、「オリパラ 2020」）¹に向けた医療救護・災害医療体制の検討と準備を進めてきた。RWC2019 においては、テロ災害の発生を想定した CBRNE 研修やマスギャザリングセミナー等の実施、大規模イベント医療・救護ガイドブックの刊行、ショートメールサービスによる情報共有システムや CBRNE 専門家と繋がる「ワンストップ相談窓口」体制の構築などを実施してきた。

本リサーチエッセイは、2019 年 11 月 2 日を以て RWC2019 が閉幕したことを受け、検証調査を実施し、教訓をオリパラ 2020 に活かすことを目的とする。

¹ 本調査実施時点では、オリパラ 2020 は 2020 年 7 月 22 日から開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行により、約 1 年後の 2021 年 7 月 23 日開催となることが 2020 年 3 月 30 日決定した。

2. 調査の概要

2.1 調査目的

RWC2019 の活動実績と課題を把握し、2021 年実施予定となった東京オリンピック・パラリンピックに向けて医療体制の充実化を図る。

2.2 調査期間

2020 年 1 月 10 日から 2 月 17 日まで

2.3 調査対象

- (1) 対象地域 RWC2019 開催地 12 都道府県
- (2) 対象機関 12 都道府県医師会および会場立地の 14 郡市医師会

表 1 調査の設問と対象

調査対象	設問Ⅰ：RWC2019	設問Ⅱ：オリパラ 2020
都道府県 医師会	北海道、岩手、埼玉、東京、神奈川、静岡、 愛知、大阪、兵庫、福岡、大分、熊本	北海道、埼玉、東京、 神奈川、静岡
郡市 医師会	札幌市(北海道)、釜石(岩手)、熊谷市(埼玉)、調布 市(東京)、横浜市(神奈川)、磐田(静岡)、豊田加茂 (愛知)、河内(大阪)、神戸市(兵庫)、福岡市(福岡)、 大分市・大分郡市・大分東(大分)、熊本市(熊本)	札幌市(北海道) 調布市(東京) 横浜市(神奈川)

2.4 調査方法

インターネット調査(調査票をメールに添付して返信)。メールの利用が難しい医師会については、FAX 調査。

2.5 調査項目

設問ⅠはRWC2019に関する質問、設問Ⅱはオリパラ2020に関する質問とした。設問ⅠはRWC2019会場の立地する医師会に対するものとし、設問ⅡはRWC2019会場に立地する医師会のうち、当該会場がオリパラの競技場としても指定されている医師会への質問とした。

設問Ⅰ．RWC2019について

- Q1 RWC組織委員会や開催自治体等からの協力依頼
- Q2 開催地医師会の協力状況
- Q3. 開催地医師会の独自の取組み
- Q4. ラグビー会場付近の救護所への医師派遣状況
- Q5. 組織委員会や開催自治体との情報連絡
- Q6. 日本医師会の取組みに関する意見や要望
- Q7. RWC2019大会の医療体制の確保に伴う日常医療への影響
- Q8. 今後の課題

設問Ⅱ．オリパラ2020について

- Q1. オリパラ2020開催に関する協議体への参加状況
- Q2. オリパラ2020組織委員会や開催自治体等からの協力依頼
- Q3. 医師会から組織委員会や開催自治体等への要望
- Q4. オリパラ2020会場付近の救護所への医師派遣予定
- Q5. オリパラ2020の医療体制等について日本医師会に対する要望等

3. 調査結果

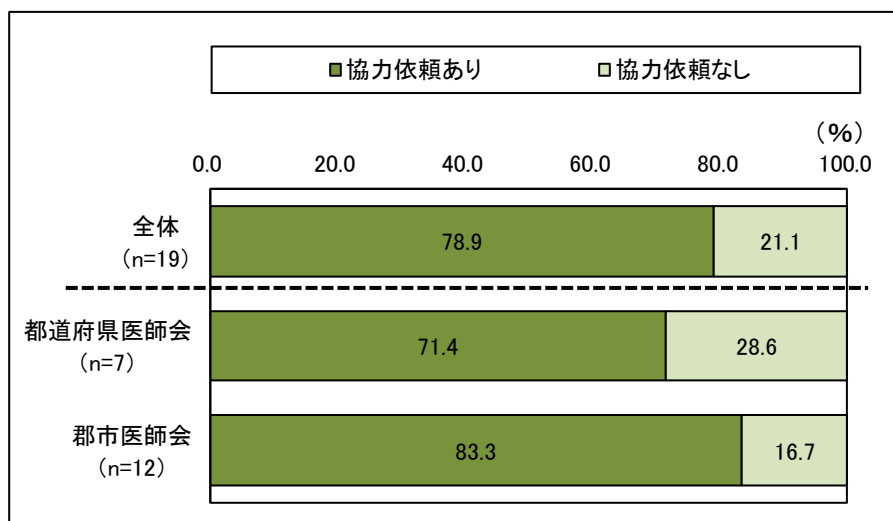
回答があった医師会は、12 都道府県医師会のうち 7 医師会、14 郡市医師会のうち 12 医師会の計 19 医師会である。

3.1 RWC2019 日本大会における医師会の活動結果

3.1.1 RWC 組織委員会や開催自治体等からの協力依頼の状況

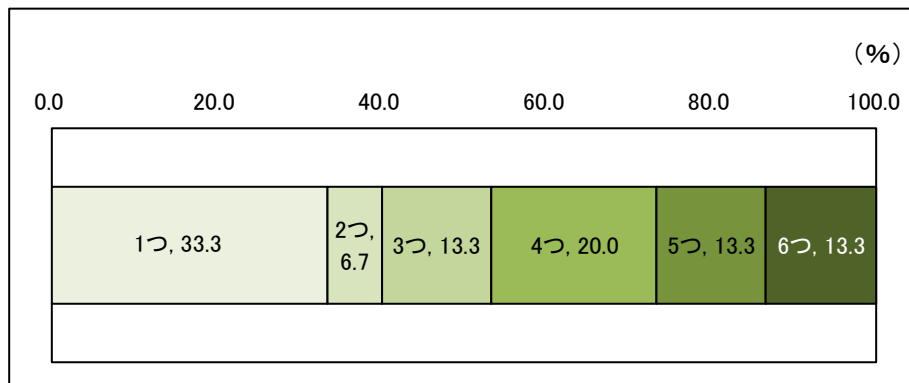
RWC 組織委員会や開催自治体等から、何らかの協力依頼を 1 つ以上受けた医師会は 78.9% (15 医師会) であった。医師会別にみると、依頼を受けた都道府県医師会は約 7 割、郡市医師会は約 8 割であった (図 1)。

図 1 組織委員会または開催自治体からの協力依頼の有無



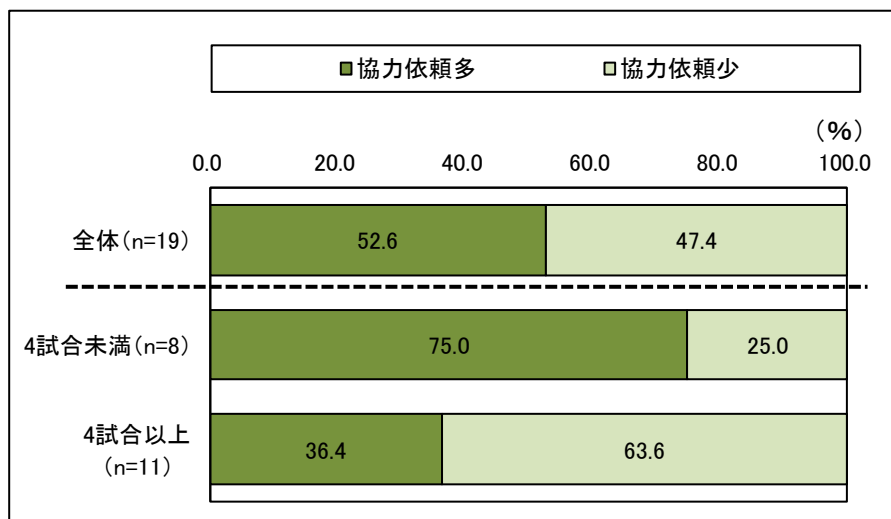
協力依頼数は「1 つ」が最も多く、約 3 割であった（図 2）。1 医師会あたりの協力依頼数は 3.1 個であった。

図 2 協力依頼数（協力依頼があった医師会 n=15。平均依頼数 3.1 個）



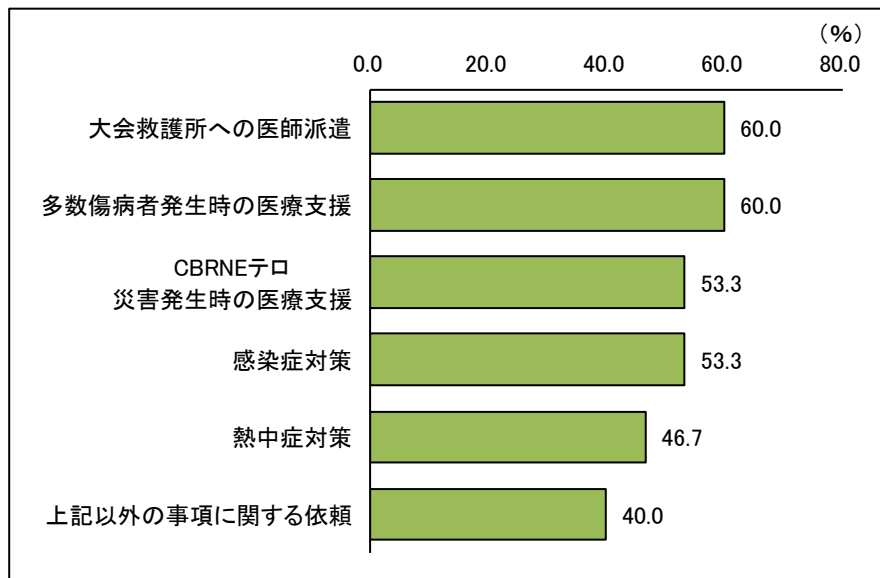
「協力依頼の数が 0～1 個」を「協力依頼少」群、「協力依頼の数が 2 個以上」を「協力依頼多」群に分けたところ、開催試合数が 4 試合未満の医師会で、複数の協力依頼を受けた割合が高かった。

図 3 協力依頼数-開催試合数別



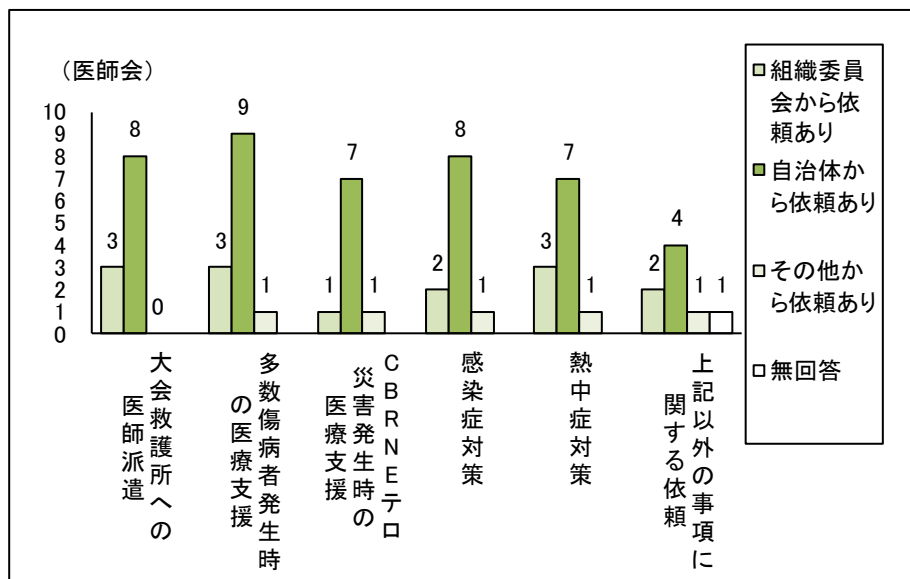
「大会救護所への医師派遣」、「多数傷病者発生時の医療支援」はそれぞれ 6 割の医師会が依頼を受けていた。（図 4）。

図 4 依頼を受けた医師会の割合



協力依頼元については、いずれの項目も「自治体」からの依頼が最も多かった（図 5）²。

図 5 項目別協力依頼元の状況（複数回答）



² 組織委員会や自治体から「CBRNE テロ災害発生時の医療支援」に対する協力依頼がなかったため、医師会の方から協力を打診した医師会も 1 件報告があった。

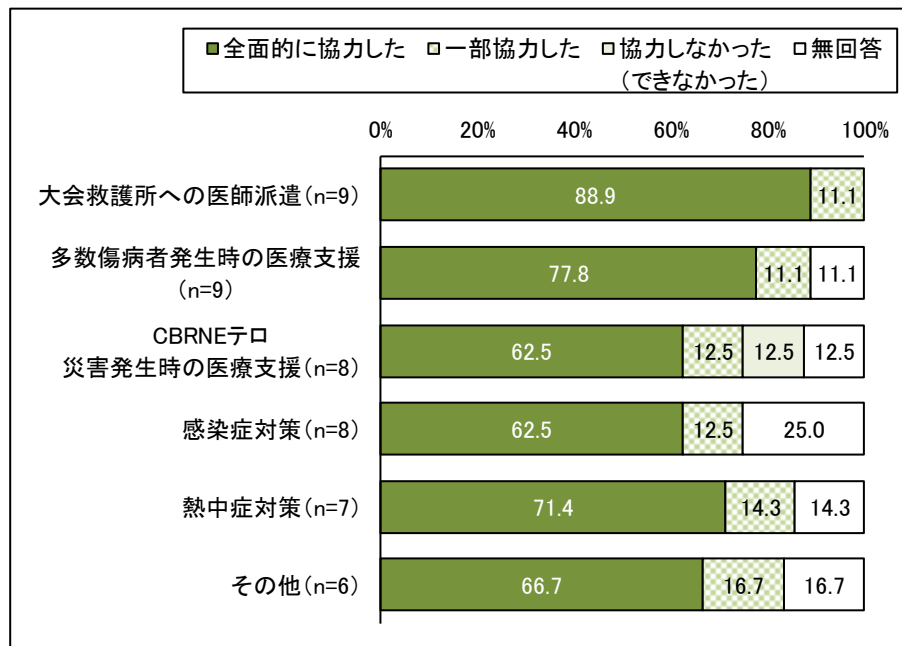
各項目別の協力依頼の具体的な内容は、表 2 の通りである。

表 2 協力依頼の具体的な内容（自由記述）

依頼項目	具体的な依頼内容
大会救護所への医師派遣	・医師の派遣 ・アクセスコントロールエリア外救護所（1箇所）への医師派遣 ・シャトルバス到着地より大会会場までの経路に設置された救護所に事務員、看護師、医師がチームで待機、負傷者に対応 ・執務医3名の派遣、AMOの推薦、後方支援病院4病院の推薦 ・観客（競技場内）の救援 ・救護本部に1人医師が待機 ・本部及び救護所への医師出務協力
多数傷病者発生時の医療支援	・救急医療体制の確保 ・救急医療提供体制の確保 ・組織委嘱医→会場周辺救護所待機医→医師会立病院などの後方支援病院への搬送・負傷者治療 ・マスコギャザリング対応や2次救急医療機関での収容等 ・救護本部に医師1人待機、救護所に2人医師呼び出し ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・医療圏内での傷病者受け入れと、後方支援病院への搬送 ・RWC受入協力病院への搬送手順書
熱中症対策	・救急医療体制の確保 ・医師会代表医師を自治体医療チームワーキンググループに派遣 ・大会救護所への医師派遣及び多数傷病者発生時の医療支援の対応に含めての依頼 ・こちらから問題提起し依頼発出させた ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・医療圏内の医療機関での患者受け入れ ・救護所業務の一環
感染症対策	・感染症デイリーレポートの周知 ・感染症発生動向調査の取組強化 ・医師会代表医師を自治体医療チームワーキンググループに派遣、発症時の受入れ体制の整備およびシュミレーション ・大会救護所への医師派遣及び多数傷病者発生時の医療支援の対応に含めての依頼 ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・医療圏内の医療機関での患者受け入れ ・救護所業務の一環
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	・救急医療体制の確保 ・救急医療提供体制の確保 ・医師会代表医師を自治体医療チームワーキンググループに派遣、発生時の受入れ体制の整備およびシュミレーション ・テロ被害想定とその対応についての合同協議 ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・JMATの派遣について
上記以外の事項に関する依頼	・医師会主体 ・大会期間中における医療提供体制確保への支援 ・大地震等の大規模災害発生時の後方支援病院として整備、医師会代表医師を自治体ワーキンググループに派遣、事前訓練に参加 ・チームキャンプ・宿泊地周辺の医療体制の確保 ・医療救護検討部会への参画 ・エリアメディカルサービスディレクトリの作成 ・全体会議並びに医療部会への参画依頼

協力依頼があった内容ごとに、医師会の協力状況を示したものが、図 6 である。依頼を受けた医師会は、おおむね全面的に協力をしていた。

図 6 協力依頼に対する医師会の協力状況



組織委員会や自治体から依頼はなかったが、自発的に医師会独自の取り組みとして実施したものがあるかについて自由記述で尋ねたところ、「テロ対策研修会の実施」、「執務医が執務しやすいよう、医師会から手当を加算」「大会開催日、ファンゾーン開催日の救急医療」、「医師、看護師等医療関係者への説明会開催」が挙げられた。

3.1.2 大会期間中の会場付近の観客用救護所への医師の派遣状況

大会期間中、ラグビー会場付近の救護所（観客用）へ医師を派遣したかについては、「派遣した」が42.1%（8 医師会）、「派遣していない」は57.9%（11 医師会）であった（図 7）。医師会別にみると、派遣した都道府県医師会は3 割弱、都市医師会は5 割であった（図 8）。派遣先は、「競技場外のみ」が62.5%（5 医師会）で最も多かった（図 9）。

図 7 大会期間中、ラグビー会場付近の救護所（観客用）へ医師の派遣の有無

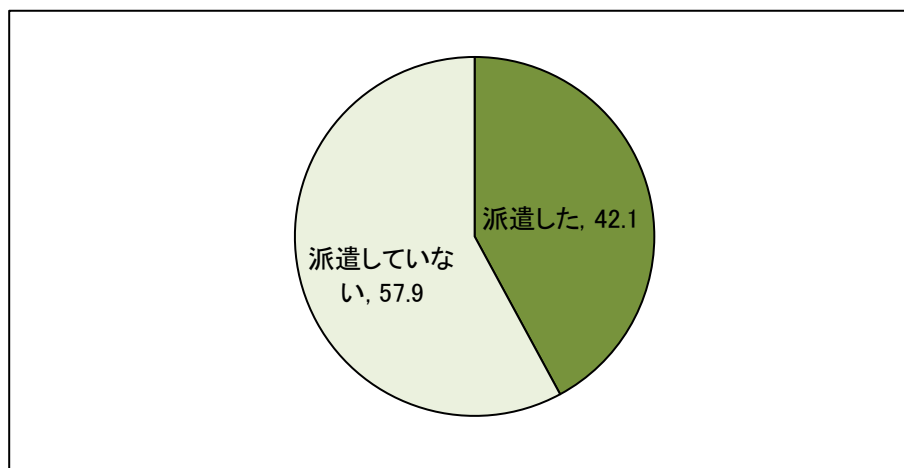


図 8 会場付近の救護所（観客用）への医師の派遣の有無 - 医師会別

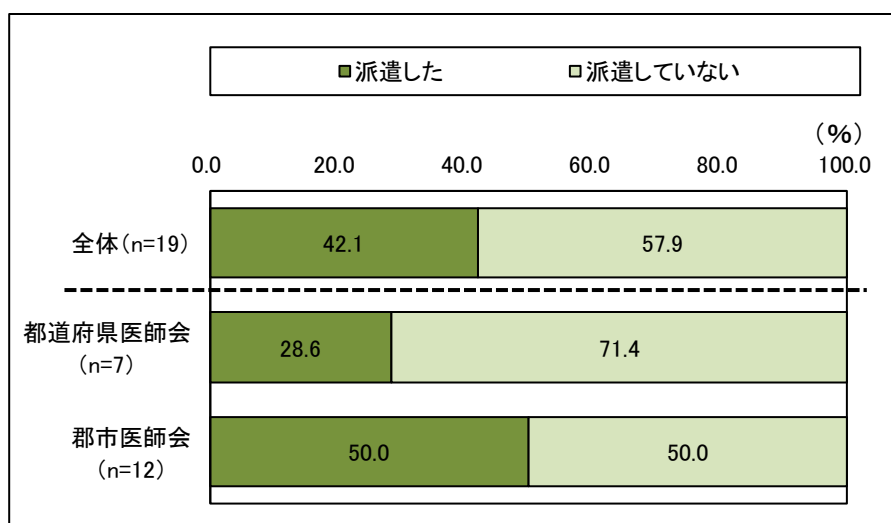
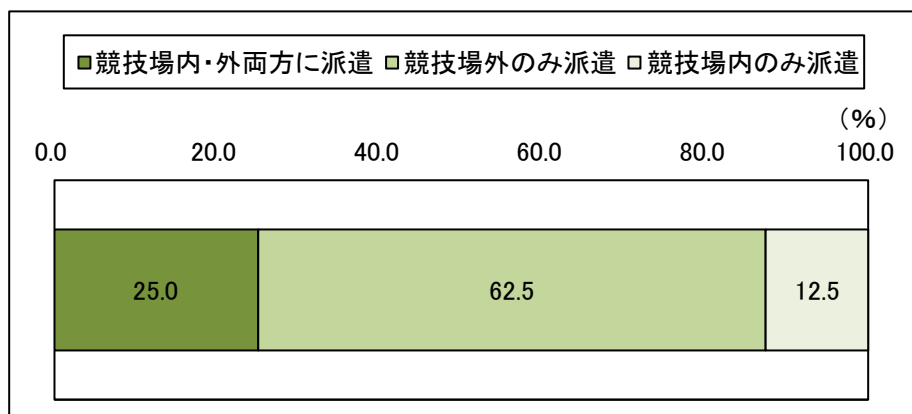


図 9 医師の派遣先（派遣した医師会 n=8）



派遣状況をみると、「競技場内」へ派遣した医師会は 3 医師会、「競技場外」へ派遣した医師会は 6 医師会であった。競技場内、競技場外それぞれの派遣状況を表 3 に示す。

表 3 競技場内、競技場外への医師の派遣状況

①競技場内

医師会	大会実施日数	執務時間 (1日平均)	1救護所当たり 医師の配置人数	設置救護所数
f都市医師会	1日間	5.75	1.0	2
h都市医師会	2日間	6.0	1.0	2
C都道府県医師会	5日間	8.0	1.0	4

②競技場外

医師会	大会実施日数	執務時間 (1日平均)	1救護所当たり 医師の配置人数	設置救護所数
c都市医師会	1日間	12.0	2.0	1
d都市医師会	3日間	6.2	1.0	1
f都市医師会	4日間	9.9	2.0	1
i都市医師会	4日間	9.5	2.0	1
l都市医師会	4日間	10.4	1.0	4
B都道府県医師会	3日間	3.0	1.0	1
C都道府県医師会	5日間	13.0	1.3	3

日当、交通費の支給状況を図 10 に示す。日当、交通費の支給とも 75.0%（6 医師会）で行われていた。日当については、時給制が 2 医師会、日給制が 3 医師会、交通費につ

いては全医師会が実費支給であった（図 11）。支給者については、日当、交通費のいずれも開催自治体によるものがもっとも多かった（図 12）。

図 10 日当、交通費の支給状況

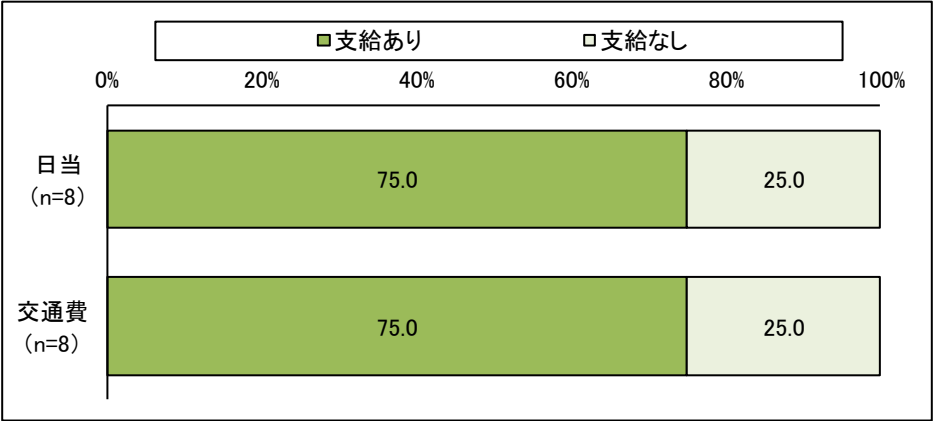


図 11 支給基準

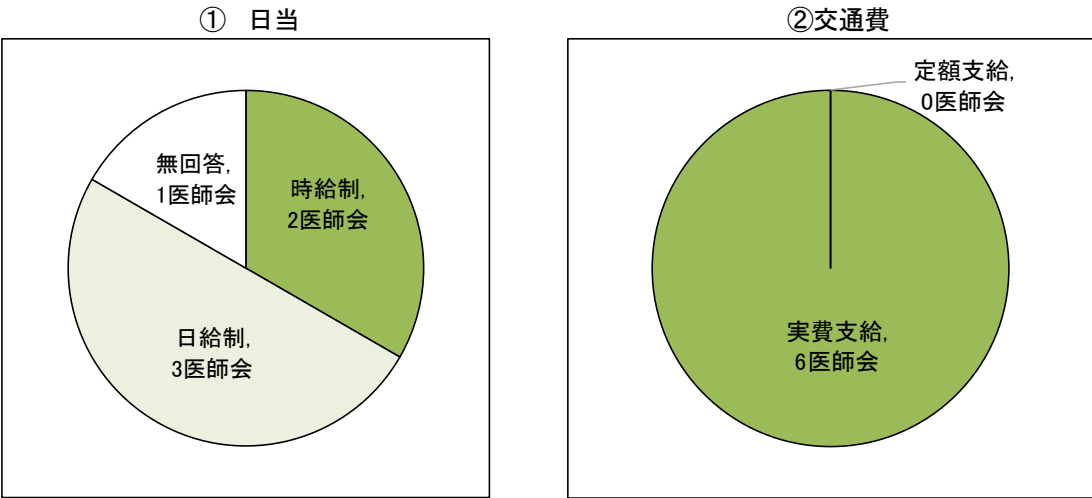
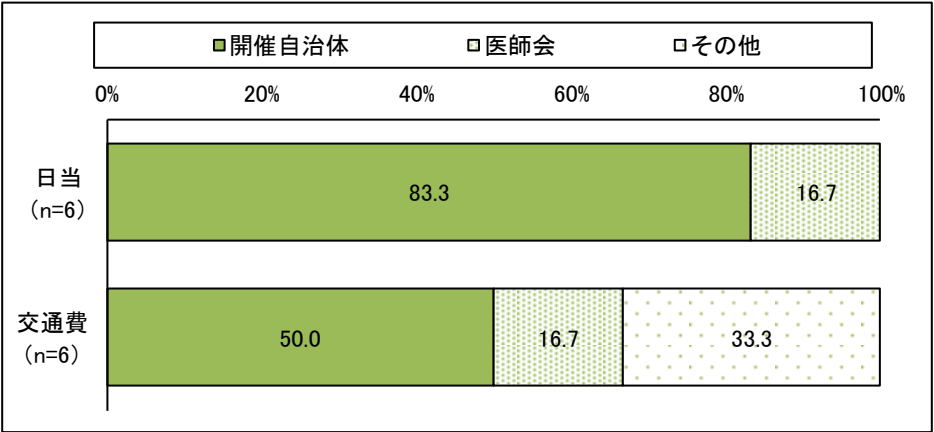


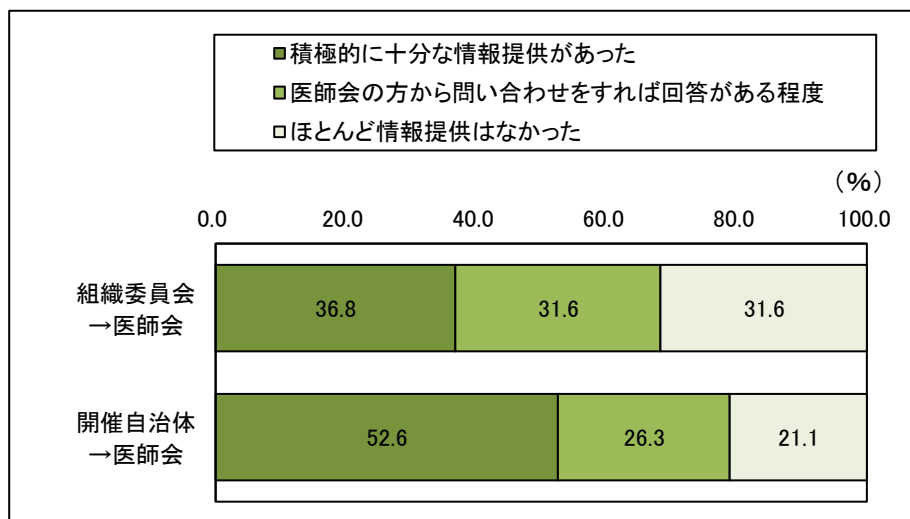
図 12 日当、交通費の支給者



3.1.3 組織委員会や開催自治体からの情報提供の状況

「組織委員会から医師会」、「開催自治体から医師会」に対する RWC2019 に関する医療体制（テロ災害含む）の情報提供については、約 5 割が開催自治体から「積極的に十分な情報提供があった」と回答したが、組織委員会からについては 4 割未満であり、組織委員会から医師会へ十分な情報提供が行われなかったことがうかがわれた（図 13）。

図 13 組織委員会、開催自治体から医師会への医療体制に関する情報の提供状況



医師会別にみると、「組織委員会から医師会」については、「積極的に十分な情報提供が行われた」と回答した都道府県医師会は 1 割台であった。「開催自治体から医師会」についても「積極的に十分な情報提供が行われた」と回答した都道府県医師会は 4 割台であった。

図 14 組織委員会から医師会への情報提供状況 - 医師会別

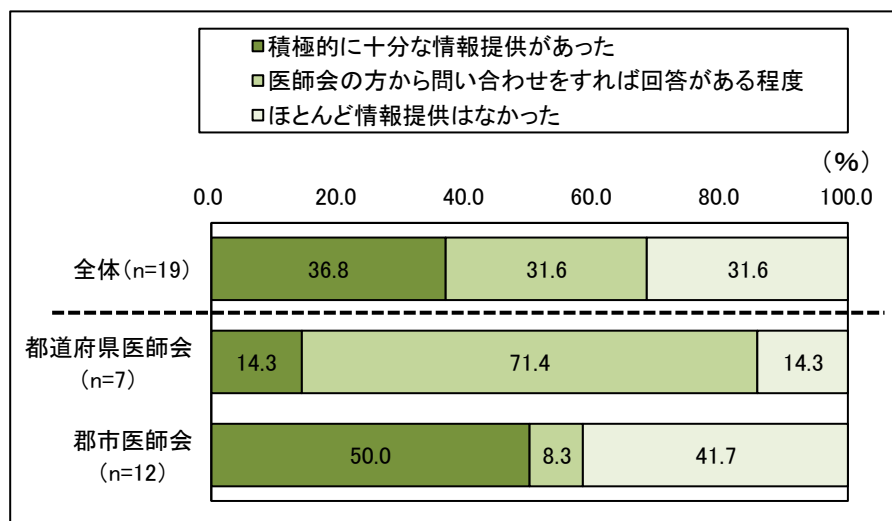
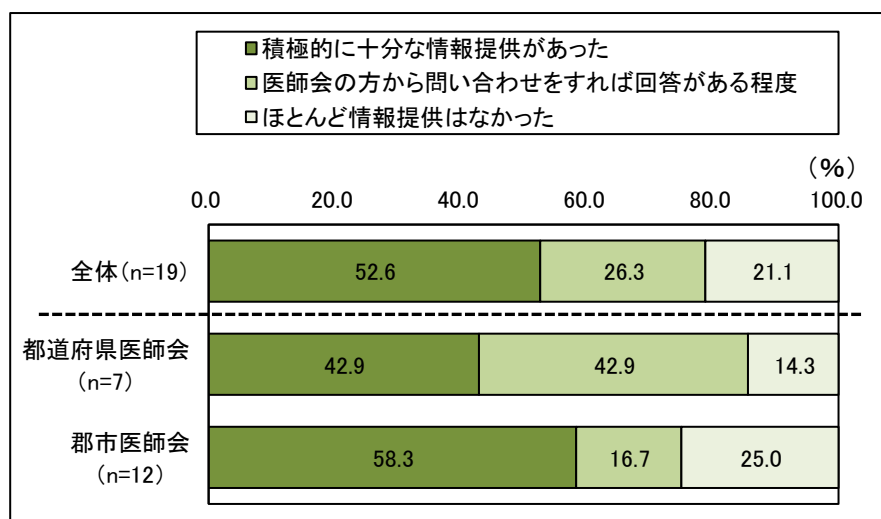


図 15 開催自治体から医師会への情報提供状況 - 医師会別



大会期間中の医師の派遣の有無でみると、医師を派遣したにもかかわらず、組織委員会から「ほとんど情報提供がなかった」という回答は半数を占めた。(図 16)。開催自治体からの情報提供については、医師の派遣の有無で大きな違いは見られなかった(図 17)

図 16 組織委員会から医師会への情報提供状況 - 大会期間中の医師の派遣の有無別

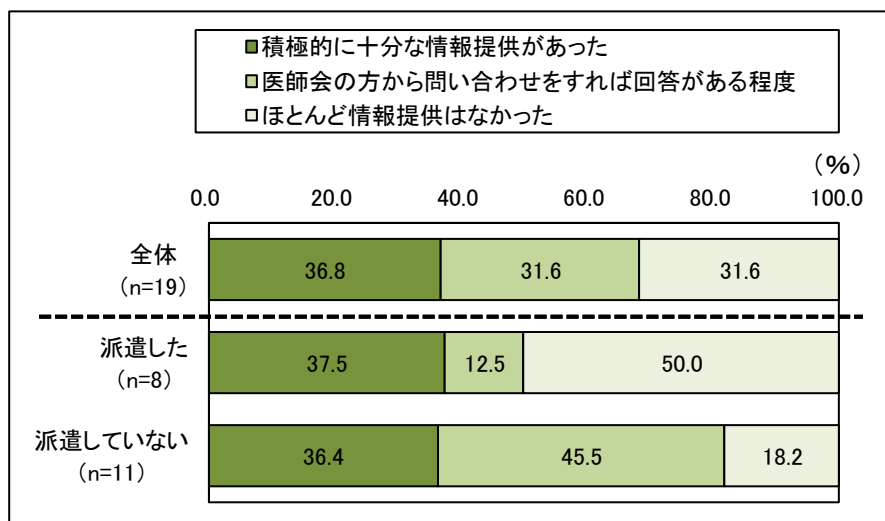
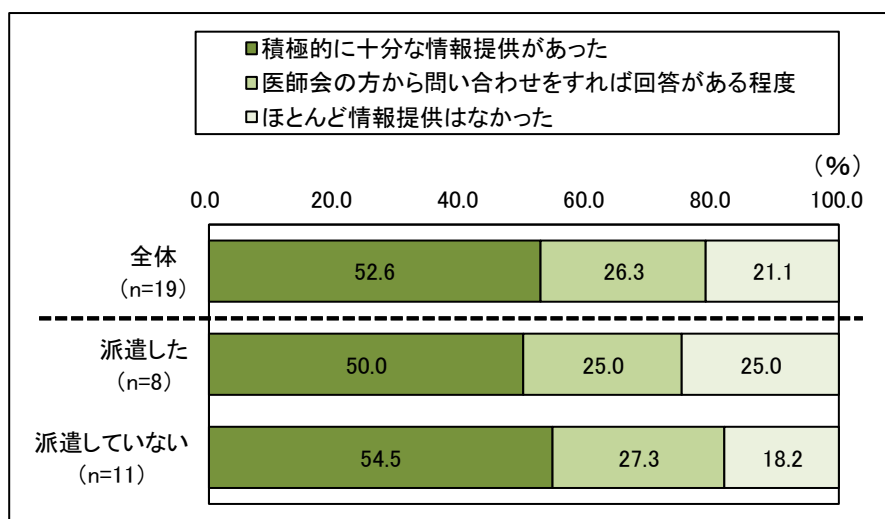
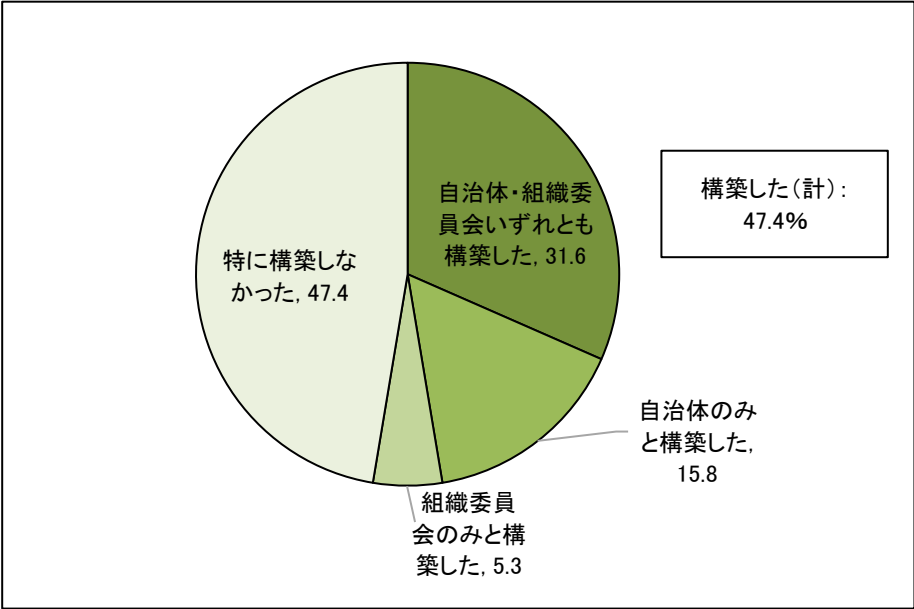


図 17 開催自治体から医師会への情報提供状況 - 大会期間中の医師の派遣の有無別



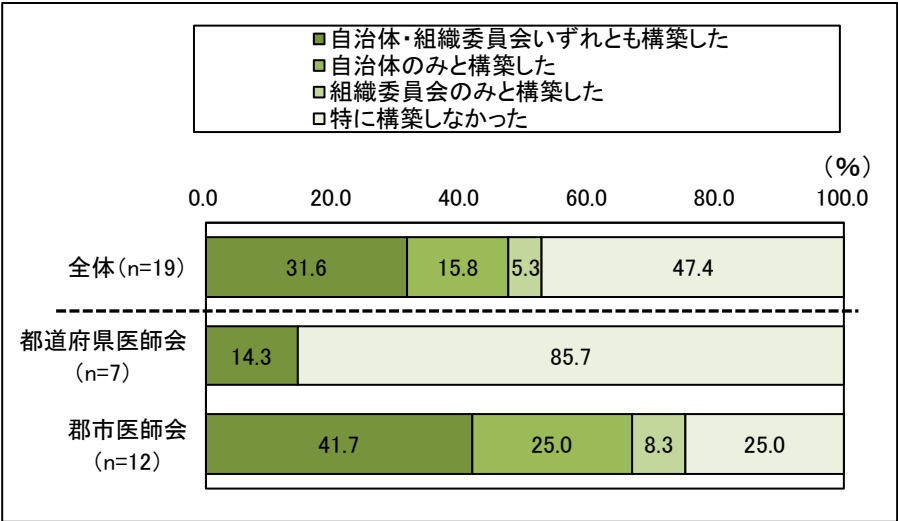
医師会が組織委員会や開催自治体との間で情報連絡体制を構築した割合は 47.4%（9 医師会）で約半数であった（図 18）。

図 18 組織委員会や開催自治体との情報連絡体制構築の有無



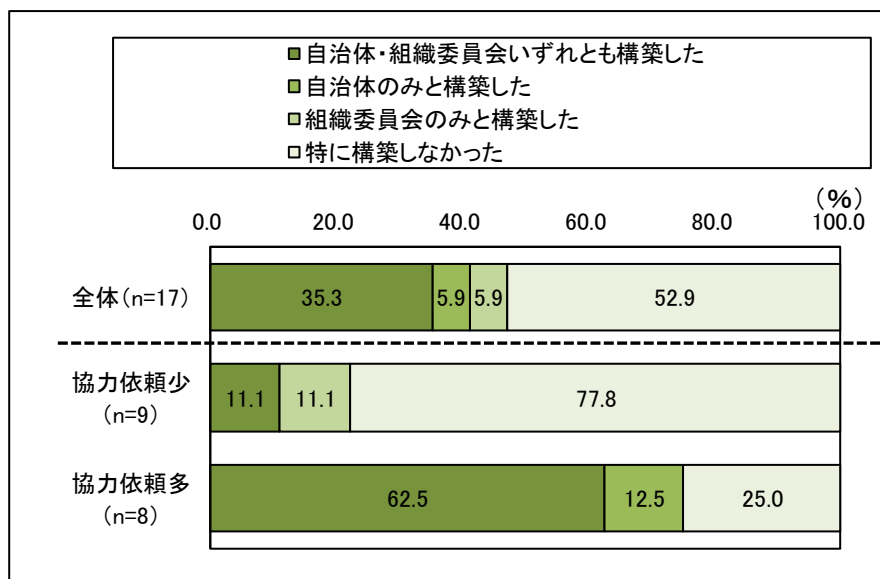
医師会別にみると、都道府県医師会では「特に構築しなかった」が 9 割弱を占めた（図 19）。

図 19 組織委員会や開催自治体との情報連絡体制構築の有無 - 医師会別



協力依頼数別にみると、協力依頼が少なかった医師会では、8割近くが情報連絡体制を「特に構築しなかった」と回答したが、複数の協力依頼を受けた医師会では、組織委員会・開催自治体のいずれとも情報連絡体制を構築した医師会が6割以上であった（図 20）。

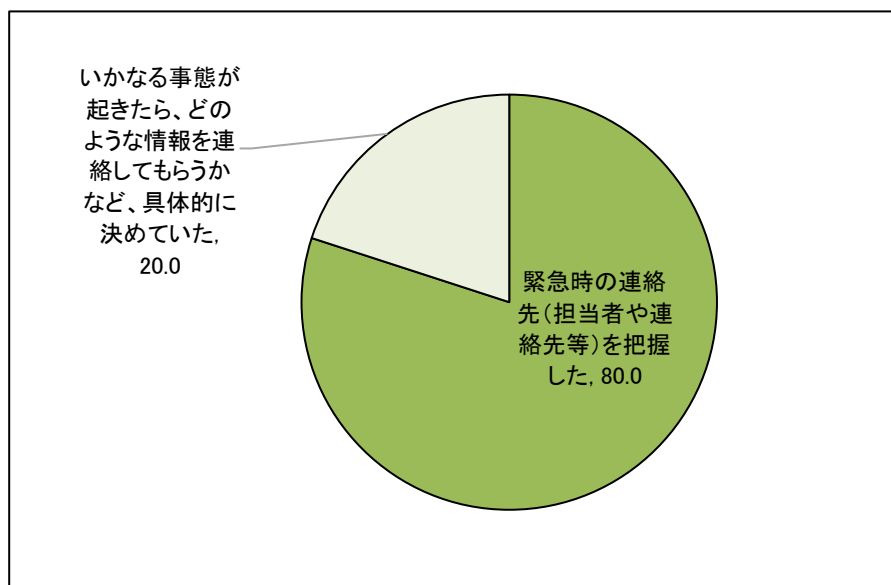
図 20 組織委員会や開催自治体との情報連絡体制構築の有無 - 協力依頼数別



構築した情報連絡体制については、緊急時の連絡先を把握したものが多数を占めていた。

（図 21）

図 21 構築した情報連絡体制の内容 (n=10)

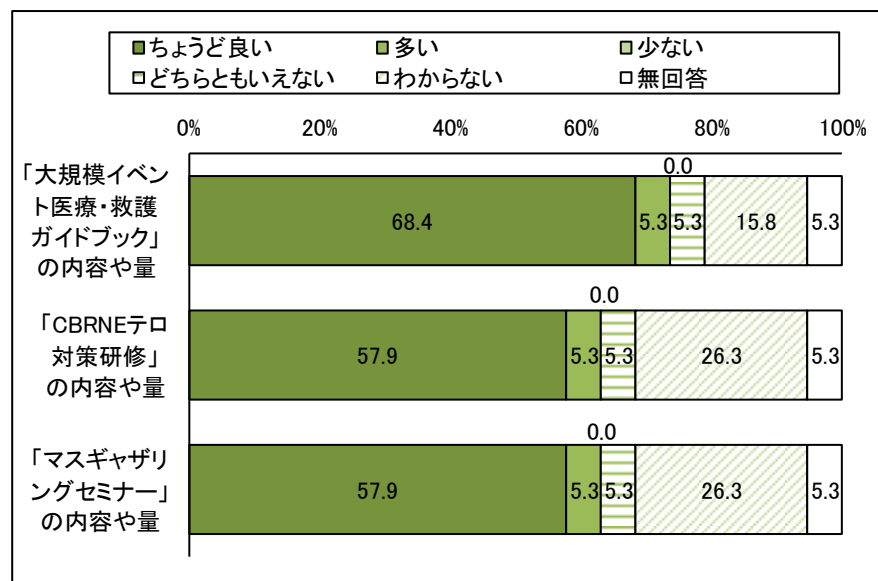


3.1.4 日本医師会の取り組みに関する意見や要望

RWC2019 開催に当たり、日本医師会は①「大規模イベント医療・救護ガイドブック」の発行②CBRNE テロ対策の研修会③マスギャザリングセミナー④CBRNE 専門家の助言・支援を提供する「ワンストップ窓口」の設置⑤ショートメールサービスによる情報共有システムの構築等の取り組みを実施した。

①～③の取り組みの内容や量の適切さの評価を尋ねたところ、ガイドブックの発行を知らなかったり、研修会やセミナーに参加をしていなかったりするため「わからない」と回答した医師会もあったが、「わからない」「無回答」を除くと、「ちょうど良い」は各項目とも約 8 割～9 割³となり、一定の評価は得られたといえる（図 22）。

図 22 「大規模イベント医療・救護ガイドブック」の発行や研修会、セミナー開催の評価



³ 「わからない」「無回答」を除いた場合の「ちょうど良い」の割合；①→86.7% ②→84.6% ③→84.6%

ワンストップ窓口については、6割弱は連絡先や利用方法等を十分理解していたと回答したが、「利用方法はよくわからなかった」、「連絡先を知らなかった」が2割弱あった。

(図 23)。ワンストップ窓口の設置についての自由記述では、今後の設置継続や周知方法の改善を望む意見がみられた(表 4)。

図 23 ワンストップ窓口の連絡先や利用方法の認知状況

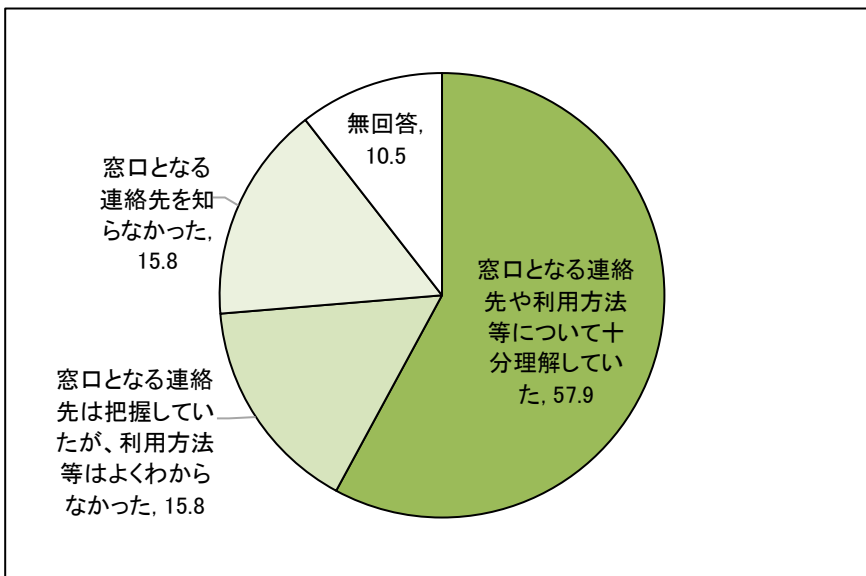


表 4 ワンストップ窓口についての意見・要望(自由記述)

継続希望	・よい取り組みと思われます ・継続してほしい ・東京2020大会のような大規模イベント開催時には今後も設置してほしい
周知について	・現場の医療体制を補完する上から、制度の周知については、現場の医療体制を構築(調整)する前に、早めにしていただければ、より有用と思われます。 ・ワンストップ窓口は有用と考えるが、日医のHP等から連絡先が入手できるよう明示されると周知を行いやすくなるのではないかと。
その他	・会場内の情報は、組織委員会がクローズにしていたようです。

ショートメールサービスによる情報共有システムの構築については、システムの周知や継続希望を求める意見がみられた（表 5）。

表 5 ショートメールサービスによる医師会間の情報共有システムの構築に対する意見や要望（自由記述）

継続希望	・有効な手段のひとつだと思う。継続希望。 ・RWC開催中は利用することはなかったが、上記と同様に今後も設置を希望する ・リアルタイムに情報を共有することは大切であり、今後も利用できるシステムだと思われる
周知について	・この制度については、承知しておりませんでした。万一の際、迅速な情報提供の手段として有用と思われるので、周知をお願いいたします。
その他	・開催県・市自治体の医療バックアップグループに県医師会および市医師会より代表者を派遣していたので本システムには全員が参加していなかった ・マスギャザリング災害が万が一、起こった時には、現場は混乱しています。このような混乱の中で、情報共有する仕組みをお考え下さい。（現場救急医療体制を崩さずに、まずは、現場視察され、その担当者の方から他都市へ情報発信して頂くなど） ・何も起きなかったので有用性の判断ができない。 ・使用することがありませんでした。

3.1.5 日常の医療体制に支障が生じた事例、医師派遣・参加に関する不安、今後の課題等

開催に伴い日常の医療体制（特に救急医療）に何らかの支障が生じた事例の有無については、全ての医師会で支障は生じなかったという回答であった。

大会に医療チームを派遣したり自身が参加することの不安については、「外国人対応」「組織委、自治体との関係」、「感染症対策」「マスギャザリングでの事故等」が挙げられた（表 6）。外国人対応については、通訳や翻訳機器を用いた意思疎通に懸念があったとすることで、東京オリンピック・パラリンピックでも引き続き課題となるものと考えられる。

表 6 RWC2019 大会に医療チームを派遣もしくは、自身が参加するにあたって、不安や心配に感じられたこと（自由記載）

外国人 対応	・会員からは通訳等の課題が指摘されていましたが、特段のトラブル等はありませんでした。 ・外国人観光客来訪に当たり救急救護の際の言語に不安があった（県が無料でタブレット端末の自動通訳を契約し、医療従事者全員が使用可能な状態であったが不安はあった）
組織委・ 自治体と の関係	・組織員会、自治体からの情報の提供等、連絡はこちらから連絡しなければならなかった。特に組織委員会からは嫌みともとれる反応があった。 ・医療関係に精通していない大会実行機関との認識の共有が完全ではなかった。 ・スタジアム内の救護は別団体（日本ラグビー協会）が行っており、会場内外の連絡網も構築されていなかったおかしな体制でした。スタジアム内の救護本部との連携ぜひ必要。
感染症 対策	伝染病対策
マスギャ ザリング	・マスギャザリングでの事故等が懸念されたが特になかった。
CBRNE 対応	・CBRNE対応について、今後どこまで医師会医療班がかかわっていくのか、方向性を知りたい。募集にあたり、事前研修などが必要になってくると思われる。

今後の課題については、感染症対策や災害医療の受け入れ体制の整備、組織委員会や自治体との関係構築等が挙げられた。2020 年 1 月以降、新型コロナウイルスによる肺炎の感染が世界規模で拡大し、2020 年 7 月 22 日から開催予定だったオリパラ 2020 は約 1 年後の 2021 年 7 月 23 日開催に延期となった。感染症対策は今後いっそう、重要なものとなる（表 7）。

表 7 その他問題点や今後の課題（自由記述）

感染症対策	・新興感染症に関しての対策が心配。 ・伝染病対策
災害医療	受け入れ病院等へのCBRNE災害の教育及び訓練並びに同災害時の体制整備が必要ではないかと考える。
組織委、自治体との関係	・中央組織委員会の縛りが強く、末端現場で課題解決が遅かったり、積み残しがあった ・開催地の組織委員会地域支部や自治体の考え方によって、都道府県医師会の関与が異なるようなので、統一した形ができれば良いと思います。
医師の確保	・医療資源の少ない地方開催のマスギャザリングイベントでは、事前の医療体制構築が重要である。 ・出務協力して頂ける医師の確保が問題。協力出来る時間帯がある。
その他	・RWC2019大会を経験した結果は、Q8及びQ9のとおりでしたが、今後の大会等への備えとして、良い経験になりました。 ・開催地が市であり、県としての立ち位置に戸惑いがあった。

3.2 東京オリンピック・パラリンピック 2020（オリパラ 2020）への医師会の関与状況

RWC2019 会場の立地する医師会のうち、当該会場がオリパラ 2020 の競技場としても指定されている 8 医師会については、オリパラ 2020 への関与状況についても調査を行い、5 医師会から回答を得た。

3.2.1 オリパラ 2020 開催協議体への参加状況

回答があった 5 医師会のうち、オリパラ 2020 開催に関する協議体（推進委員会、準備委員会など）に参加している医師会は 4 医師会であった。協議体への参加者は、会長が 2 医師会、副会長が 1 医師会、理事、常任理事が 3 医師会であった。

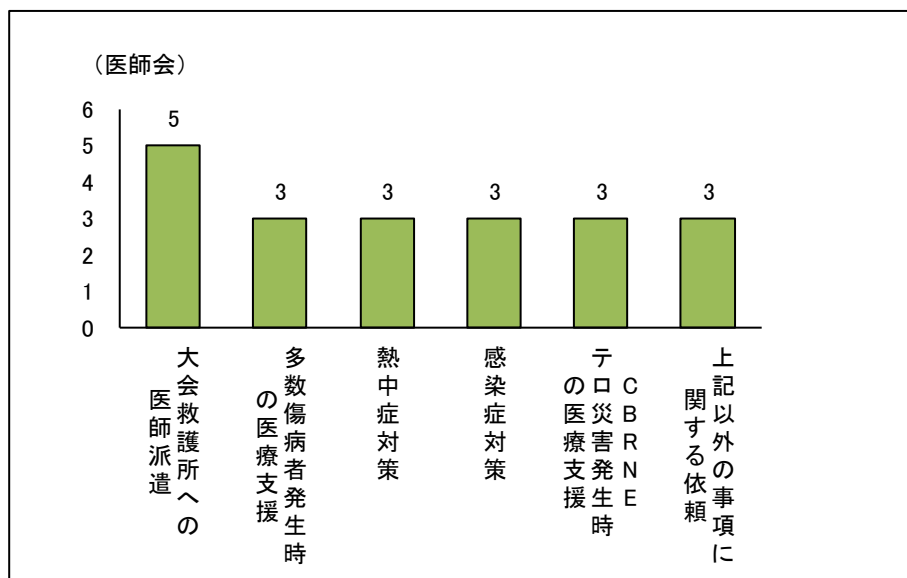
表 8 オリパラ 2020 開催協議体への参加状況

医師会名	参加しているオリパラ2020開催に関する協議体	参加者
北海道医師会	東京オリンピック・パラリンピック競技大会の札幌開催に係る医療・救護体制検討会議	常任理事
東京都医師会	・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る救急災害医療体制検討合同委員会[AC2020] ・大規模イベント時における救急医療体制検討部会 [東京都福祉保健局] ・東京2020に係る図上訓練(感染症分野) [東京都福祉保健局] ・夏季イベントにおける熱中症対策等検討委員会 [気象業務支援センター]	会長、副会長(2名)、理事(4名)
静岡県医師会	東京オリンピック・パラリンピック自転車競技静岡県開催推進委員会	会長
横浜市医師会	ラグビーワールドカップ2019 TM 東京オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会医療救護検討部会	地域医療・災害対策 常任理事

3.2.2 オリパラ組織委員会や開催自治体からの協力依頼の状況

オリパラ 2020 開催に関し、組織委員会や開催自治体等からの協力依頼については、5 医師会とも受けていた。協力依頼のうち、もっとも多いものは「大会救護所への医師派遣」であった⁴（図 24）。

図 24 組織委員会や開催自治体から協力依頼を受けた医師会数



3.2.3 オリパラ 2020 開催に対する組織委員会・自治体等への要望の実施状況

組織委員会や開催自治体等に何らかの要望を既に実施している医師会は 2 医師会、今後実施予定は 2 医師会、要望せずその予定もない医師会は 1 医師会である。

要望の内容は「競技開始時間」、「たばこ対策」、「スポーツを通じた健康」、「必要な予防接種を受けられる体制について」、「メディカルスタッフ研修の視察」、「協力医に対する報酬の有無（無い場合は要望）」等、多岐に渡るものである。

⁴ 大会救護所の医師派遣のみ先に協力依頼があり、他の事項については今後の協議で決定するという回答が 1 医師会あった。

3.2.4 オリパラ 2020 試合会場付近の救護所への医師会からの医師派遣予定および医師派遣・参加に関する不安、日本医師会への要望

2020 年 2 月中旬までに、会場付近の救護所に医師を派遣することが決定している医師会は 2 医師会、派遣予定の医師会は 2 医師会、未定が 1 医師会である。

オリパラ 2020 に医療チームを派遣、もしくは自身が参加するにあたって不安や心配に感じることにについて自由記載で尋ねたところ、人員体制の確保について意見が多く、感染症対策やテロ対策についても意見が寄せられた（表 9）。

表 9 オリパラ 2020 に医療チームを派遣もしくは、自身が参加するにあたって、不安や心配に感じられること（自由記載）

人員体制の確保	・医療チーム構成員の確保（ロードレース沿道全域にわたる医療救護活動、医療機関等の医療資源が不足する地域） ・日常の救急体制の確保 ・大規模イベント時の医療体制の支援 ・早朝・深夜の移動手段
感染症対策	・感染症対策 ・感染症について、状況により十分な対応ができるかどうか不安に感じられる
テロ対策	・不測の事態（テロ・多数傷病者）への対応。 ・テロ対策について、状況により十分な対応ができるかどうか不安に感じられる
熱中症対策	熱中症対策
外国人医療対策	外国人医療対策
関係団体とのコミュニケーション	ラグビーワールドカップ等、組織委員会、開催自治体からの要請等がない事。

同じく自由記載で尋ねた日本医師会への要望については、提供する医療に見合う対価を求める意見がみられた（表 10）⁵。

表 10 日本医師会への要望

提供する医療に見合う対価の保障	・会場付近の診療所に大会期間中の診療時間の延長の協力を求める予定である。協力いただく診療所のご負担を少しでも減らせるよう、時間外加算の要件を緩和。 ・医療チームに対する報酬が組織委員会より支払われない点 ・医療は開催コマーシャル、経済広報等などに比べあと回しにされている様に感じる。ボランティアと同等に感じる。
その他	・緊急情報を共有できる全国の連絡網を構築してほしい。 ・当初から競技会場になっている種目があったが、それに関する情報提供はなかった。そのようななか、新たに競技が追加決定した。組織委員会からは医師の派遣依頼があるが、その前段階で開催地自治体が担う観客の救護・医療体制については、サッカー会場の責任者である大学病院ならびに開催地医師会である市医師会の担当役員レベルで打ち合わせを行っており、協力体制はできている。開催地医師会主催の委員会が立ち上がり、3月上旬に初会合を行うため、これからより具体的に協議し、役割などが明確になるとと思われる。

⁵ 日本医師会への意見・要望ではないが、組織委員会からの医師派遣依頼の前段階から、大学病院ならびに市医師会との間で打ち合わせを行っており、協力体制はできているという報告が1医師会からあった。

4. まとめと考察

①組織委員会との関係づくりの難しさ

RWC2019 日本大会に関し、約 8 割の医師会が、組織委員会や開催自治体から協力依頼を受けていた。「全面的」「一部」を合わせると 8 割以上の医師会が依頼に対し何らかの協力を行っていた。

医師会が RWC2019 に協力姿勢を示した一方で、組織委員会と医師会の関係については、必ずしも円滑にいなかった側面が調査結果から示された。RWC2019 の医療体制（テロ災害対策含む）に関する情報提供の状況を「組織委員会から医師会」、「開催自治体から医師会」について尋ねたところ、開催自治体からは半数以上が「積極的に十分」に行われたと回答した。しかし、組織委員会からについては、「積極的に十分」は 36.8%に留まり、「問い合わせをすれば回答がある程度」、「ほとんど情報提供はなかった」は各々 1/3 を占め、組織委員会から十分な情報提供が行われていたとは言い難い状況であった。救護所への医師派遣の有無でみても、傾向に大きな違いはみられず、救護所に医師を派遣した医師会でも組織委員会から十分な情報提供は行われたと感じていなかった。

大会前に 12 都道府県医師会を対象に実施したインタビュー調査⁶でも、試合会場を中心とするエリア内は組織委員会、エリア外は開催自治体が管轄するという役割分担について、開催地における両者の連携が不十分であることを懸念する意見が寄せられていたが、懸念通りの結果となった。

②より充実した研修プログラムや相談窓口の継続と周知の必要性

RWC2019 日本大会前のインタビュー調査⁶で寄せられた、大規模イベントを想定した研修プログラムやテキストを提示してほしいという意見を基に、日本医師会では、①大規模イベント医療・救護ガイドブックの発行②CBRNE テロ対策の研修会③マスギャザリングセミナー④CBRNE 専門家の助言・支援を提供する「ワンストップ窓口」の設置⑤ショートメールサービスによる情報共有システムの構築-といった施策を実施した。

⁶ 日医総研ワーキングペーパーNo.431「ラグビーワールドカップ 2019 開催地における CBRNE テロ災害対策の現状把握調査」 王子野麻代・出口真弓

これらの施策の内容や量の適切さについてはおおむね高評価であり、本大会に限らず同規模の大会が開催される際は、今後も実施が望まれる。

一方、これらの施策について詳細を知らなかったという意見もあり、利用方法や詳細についてより周知を徹底する必要がある。

③医療チームの人員体制の確保や感染症対策の課題

自身が参加して不安に思ったことや今後の課題について、RWC2019、オリパラ 2020 の双方で挙げられたものが「医療チームの人員体制の確保」、「感染症対策」である。

RWC2019 日本大会救護所への医師派遣の協力については、6 割の医師会が協力依頼を受けた。全ての医師会が依頼を承諾し、協力をしたが、協力をした医師会からは医師が出務できない時間帯があったり、医療資源が少ない地域では事前の協力体制の整備が必要であるなどの意見が寄せられた。

オリパラ 2020 の開催地でもある医師会では、調査時点で不安に思っていることについては、「人員体制の確保」を挙げる意見がもっとも多く、医療資源が不足する地域で医療チーム構成員の確保の難しさや、早朝・深夜に要請があった場合の移動手段を懸念する意見もみられた。

本調査の実施時期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は中国国内から世界各地へ流行が拡大し、日本国内でもクルーズ船で集団感染が発生した頃であるため、新興感染症への対策や対応について不安に思う意見が寄せられた。

渡邊（2015）⁷によれば、新興感染症のコントロールで第一に重要なことは、感染症情報の収集・分析であり、感染症制御に向けた総合的対応の維持には①感染症のリスク評価②感染症の基礎・基盤研究③国際連携の3点である。感染症発生動向調査はもとより、様々なサーベイランスを活用して発生動向を注視し、初期段階の発生を確認し、迅速な対応を行える体制づくりが求められる。

⁷ 渡邊治雄 「感染症の世界的動向と対応」モダンメディア 61 巻 11 号 2015 pp313-322

5. 謝辞

本調査の実施にあたり、ラグビーワールドカップ開催地の医師会をはじめ、救急災害医療に精通されている専門家の先生方より、我が国および諸外国における化学テロ対策に関する現状についてのご教示と数々のご助言をいただきました。

本調査にご協力いただいたすべての皆様に、ここに深く感謝申し上げます。

(50 音順・敬称略)

小井土雄一（国立病院機構災害医療センター臨床研究部 部長）

郡山 一明（北九州市危機管理参与／救急救命九州研修所 教授）

齋藤 智也（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長）

高橋 礼子（愛知医科大学災害医療研究センター 助教）

山口 芳裕（杏林大学医学部救急医学 教授）

6. 参考資料

6.1 ラグビーワールドカップ 2019 開催地一覧

	開催地	開催場所	収容人数	試合数	観客数(※)
1	北海道札幌市	札幌ドーム	41,410	2	82,820
2	岩手県釜石市	釜石鶴住居復興スタジアム	16,187	2	32,374
3	埼玉県熊谷市	熊谷ラグビー場	24,000	3	72,000
4	東京都調布市	東京スタジアム	49,970	8	399,760
5	神奈川県横浜市	横浜国際総合競技場	72,327	7	506,289
6	静岡県袋井市	エコパスタジアム	50,889	4	203,556
7	愛知県豊田市	豊田スタジアム	45,000	4	180,000
8	大阪府東大阪市	東大阪市花園ラグビー場	30,000	4	120,000
9	兵庫県神戸市	神戸市御崎公園球技場	30,312	4	121,248
10	福岡県福岡市	東平尾公園博多の森球技場	22,563	3	67,689
11	大分県大分市	大分スポーツ公園総合競技場	40,000	5	200,000
12	熊本県熊本市	熊本県民総合運動公園陸上競技場	32,000	2	64,000
		合計		48	2,049,736

※観客数は、会場収容人数と試合数をもとに算出

6.2 ラグビーワールドカップ 2019 に関する会議体と医師会の参画状況

(出典：日医総研ワーキングペーパー)

	開催準備に係る会議体	都道府県医師会		郡市医師会		
		参画有無	参画者	医師会名	参画有無	参画者
北海道	設置なし	—	—	札幌市医師会	—	—
岩手県	ラグビーワールドカップ2019 実行委員会「総会」	○	会長	釜石医師会	○	会長
	ラグビーワールドカップ2019 実行委員会「警備・消防・医療 救護専門部会」	○	常任理事		×	—
埼玉県	2020オリンピック・パラリン ピック／ラグビーワールドカッ プ2019埼玉県推進委員会	○	会長	熊谷市医師会	×	—
東京都	設置なし（※1）	—	—	調布市医師会	—	—
神奈川県	ラグビー・オリパラ神奈川応援 団（※2）	○	会長	横浜市医師会	×	—
	ラグビーワールドカップ2019* 東京2020オリンピック・パラリ ンピック横浜開催推進委員会 「医療救護検討部会」	×	—		○	常任理事
静岡県	ラグビーワールドカップ2019 静岡県開催推進委員会	○	会長	磐田医師会	×	—
愛知県	ラグビーワールドカップ2019 愛知・豊田開催支援委員会	×	—	豊田加茂医師会	×	—
大阪府	ラグビーワールドカップ2019 大阪・花園開催推進委員会	×	—	河内医師会	×	—
兵庫県	ラグビーワールドカップ2019 神戸開催推進委員会	×	—	神戸市医師会	○	会長
福岡県	ラグビーワールドカップ2019 福岡開催推進委員会	×	—	福岡市医師会	×	—
大分県	ラグビーワールドカップ2019 救急医療対策委員会	○	常任理事	大分市連合医師 会※3	×	—
熊本県	熊本国際スポーツ大会推進事務局	○	会長	熊本市医師会	×	—

6.3 単純集計表

6.3.1 RWC2019 調査

参考資料 1 医師会種別

	医師会数	割合
都道府県医師会	7	36.8
郡市医師会	12	63.2
合計	19	100.0

参考資料 2 組織委員会や開催自治体等から協力依頼の有無

	医師会数	割合
協力依頼なし	4	21.1
1つ以上協力依頼あり	15	78.9
計	19	100.0

参考資料 3 協力依頼を受けた数

	医師会数	割合
1つ	5	33.3
2つ	1	6.7
3つ	2	13.3
4つ	3	20.0
5つ	2	13.3
6つ	2	13.3
合計	15	100.0

参考資料 4 協力依頼を受けた医師会-項目別

	医師会数	割合
大会救護所への医師派遣	9	60.0
多数傷病者発生時の医療支援	9	60.0
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	8	53.3
感染症対策	8	53.3
熱中症対策	7	46.7
上記以外の事項に関する依頼	6	40.0

参考資料 5 どこから協力依頼を受けたか-項目別

(医師会)

	組織委員会 から依頼あり	自治体から 依頼あり	その他から 依頼あり	無回答	全体
大会救護所への医師派遣	3	8	0	0	9
多数傷病者発生時の医療支援	3	9	1	0	9
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	1	7	1	0	8
感染症対策	2	8	1	0	8
熱中症対策	3	7	1	0	7
上記以外の事項に関する依頼	2	4	1	1	6

(割合)

	組織委員会 から依頼あり	自治体から 依頼あり	その他から 依頼あり	無回答
大会救護所への医師派遣	33.3	88.9	0.0	0.0
多数傷病者発生時の医療支援	33.3	100.0	11.1	0.0
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	12.5	87.5	12.5	0.0
感染症対策	25.0	100.0	12.5	0.0
熱中症対策	42.9	100.0	14.3	0.0
上記以外の事項に関する依頼	33.3	66.7	16.7	16.7

参考資料 6 具体的な依頼内容-項目別

依頼項目	具体的な依頼内容
大会救護所への医師派遣	・医師の派遣 ・アクセスコントロールエリア外救護所(1箇所)への医師派遣 ・シャトルバス到着地より大会会場までの経路に設置された救護所に事務員、看護師、医師がチームで待機、負傷者に対応 ・執務医3名の派遣、AMOの推薦、後方支援病院4病院の推薦 ・観客(競技場内)の救援 ・救護本部に1人医師が待機 ・本部及び救護所への医師出務協力
多数傷病者発生時の医療支援	・救急医療体制の確保 ・救急医療提供体制の確保 ・組織委嘱医→会場周辺救護所待機医→医師会立病院などの後方支援病院への搬送・負傷者治療 ・マスギャザリング対応や2次救急医療機関での収容等 ・救護本部に医師1人待機、救護所に2人医師呼び出し ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・医療圏内での傷病者受け入れと、後方支援病院への搬送 ・RWC受入協力病院への搬送手順書
熱中症対策	・救急医療体制の確保 ・医師会代表医師を自治体医療チームワーキンググループに派遣 ・大会救護所への医師派遣及び多数傷病者発生時の医療支援の対応に含めての依頼 ・こちらから問題提起し依頼発出させた ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・医療圏内の医療機関での患者受け入れ ・救護所業務の一環
感染症対策	・感染症デイリーレポートの周知 ・感染症発生動向調査の取組強化 ・医師会代表医師を自治体医療チームワーキンググループに派遣、発症時の受入れ体制の整備およびシュミレーション ・大会救護所への医師派遣及び多数傷病者発生時の医療支援の対応に含めての依頼 ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・医療圏内の医療機関での患者受け入れ ・救護所業務の一環
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	・救急医療体制の確保 ・救急医療提供体制の確保 ・医師会代表医師を自治体医療チームワーキンググループに派遣、発生時の受入れ体制の整備およびシュミレーション ・テロ被害想定とその対応についての合同協議 ・医療救護検討部会に参加し検討を行った ・JMATの派遣について
上記以外の事項に関する依頼	・医師会主体 ・大会期間中における医療提供体制確保への支援 ・大地震等の大規模災害発生時の後方支援病院として整備、医師会代表医師を自治体ワーキンググループに派遣、事前訓練に参加 ・チームキャンプ・宿泊地周辺の医療体制の確保 ・医療救護検討部会への参画 ・エリアメディカルサービスディレクトリの作成 ・全体会議並びに医療部会への参画依頼

参考資料 7 大会救護所への医師派遣協力状況

(医師会)

	全面的に 協力した	一部 協力した	協力しな かった(でき なかった)	無回答	計
大会救護所への医師派遣	8	1	0	0	9
多数傷病者発生時の医療支援	7	1	0	1	9
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	5	1	1	1	8
感染症対策	5	1	0	2	8
熱中症対策	5	1	0	1	7
その他	4	1	0	1	6

(割合)

	全面的に 協力した	一部 協力した	協力しな かった(でき なかった)	無回答	計
大会救護所への医師派遣	88.9	11.1	0.0	0.0	100.0
多数傷病者発生時の医療支援	77.8	11.1	0.0	11.1	100.0
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	62.5	12.5	12.5	12.5	100.0
感染症対策	62.5	12.5	0.0	25.0	100.0
熱中症対策	71.4	14.3	0.0	14.3	100.0
その他	66.7	16.7	0.0	16.7	100.0

※CBRNE テロ災害発生時の医療支援に協力しなかった（できなかった）理由→「医師会として対応が難しいと判断したため」

参考資料 8 組織委員会や自治体等から特に依頼はなかったが、自発的に、医師会独自の取組みとして実施したもの

- ・国際テロ情勢を踏まえた対策について理解を深めるとともに、テロ災害対応能力の向上を図ることを目的とし、テロ対策研修会(平成30年2月20日)を実施した
- ・執務医が執務しやすいように、手当を会から2万円加算した
- ・大会開催日、ファンゾーン開催日の救急医療(広報せず)。
- ・医師会が主導し、医療圏内の医療機関、消防、行政、大会実行委員会を召集し、対策会議を開催し、医療圏内の体制構築を行った。

参考資料 9 大会期間中、ラグビー会場付近の救護所（観客用）に貴会から医師を派遣したか

	医師会数	割合
派遣した	8	42.1
派遣していない	11	57.9
合計	19	100.0

参考資料 10 医師の派遣状況①派遣場所

	医師会数	割合
競技場内・外両方に派遣	2	10.5
競技場外のみ派遣	5	26.3
競技場内のみ派遣	1	5.3
派遣していない	11	57.9
合計	19	100.0

参考資料 11 医師の派遣状況①派遣場所-競技場内の派遣場所数

	医師会数	割合
0か所(派遣なし)	5	62.5
2か所	2	25.0
4か所	1	12.5
合計	8	100.0

参考資料 12 医師の派遣状況①派遣場所-競技場外の派遣場所数

	医師会数	割合
0か所(派遣なし)	1	12.5
1か所	5	62.5
3か所	1	12.5
4か所	1	12.5
合計	8	87.5

参考資料 13 医師の派遣状況②競技場内救護所への延べ医師派遣数

	医師会数	割合
2人	1	33.3
4人	1	33.3
20人	1	33.3
合計	3	100.0

参考資料 14 医師の派遣状況②競技場外医救護所への延べ医師派遣数

	医師会数	割合
2人	1	14.3
3人	2	28.6
8人	2	28.6
20人	1	14.3
28人	1	14.3
合計	7	100.0

参考資料 15 医師の派遣状況③競技場内救護所の配置状況

医師会	大会実施日数	執務時間 (1日平均)	医師の配置人数	設置救護所数
f都市 医師会	2019/10/2	16時～24時	4	4
	2019/10/5	11時～19時	4	4
	2019/10/9	16時～24時	4	4
	2019/10/19	13時～21時	4	4
	2019/10/20	13時～21時	4	4
h都市医師会	2019/9/28	13時～19時	2	2
	2019/10/3	13時～19時	2	2
C都道府県医師会	2019/9/25	11時45分～17時30分	2	2

参考資料 16 医師の派遣状況③競技場外救護所の配置状況

医師会	大会実施日数	執務時間 (1日平均)	医師の配置人数	設置救護所数
c都市医師会	2019/9/28	11時～17時	1	1
	2019/9/28	16時30分～21時30分	1	
	2019/10/4	13時30分～18時30分	1	1
	2019/10/4	18時～22時	1	
	2019/10/9	11時～16時30分	1	1
	2019/10/9	16時～21時	1	
	2019/10/11	14時～18時30分	1	1
	2019/10/11	18時～21時	1	
d都市医師会	2019/10/5	9時30分～16時	1	1
	2019/10/19	11時～17時	1	1
	2019/10/20	11時～17時	1	1
B都道府県医師会	2019/9/28	11時～17時	1	1
	2019/9/28	16時30分～21時30分	1	
	2019/10/4	13時30分～18時30分	1	1
	2019/10/4	18時～22時	1	
	2019/10/9	11時～16時30分	1	1
	2019/10/9	16時～21時	1	
	2019/10/11	14時～18時30分	1	1
	2019/10/11	18時～22時30分	1	
f都市医師会	2019/10/2	10時～23時	4	3
	2019/10/5	10時～23時	4	3
	2019/10/9	10時～23時	4	3
	2019/10/19	10時～23時	4	3
	2019/10/20	10時～23時	4	3
i都市医師会	2019/9/23	18時30分～21時30分	1	1
	2019/9/28	18時～21時	1	1
	2019/10/5	19時～22時	1	1
C都道府県医師会	2019/9/25	10時～22時	2	1

参考資料 17 医師の派遣状況④日当の支給状況

	医師会数	割合
支給あり	6	75.0
支給なし	2	25.0
合計	8	100.0

参考資料 18 医師の派遣状況④-1 日当の支払基準

	医師会数	割合
時給制	2	33.3
日給制	3	50.0
無回答	1	16.7
合計	6	100.0

時給額：10,000 円（2 医師会）

日給額：37,500 円、土曜 42,000 円・祝日 47,000 円、48,000 円～64,000 円

参考資料 19 医師の派遣状況④-2 日当の支給者

	医師会数	割合
開催自治体	5	83.3
医師会	1	16.7
合計	6	100.0

参考資料 20 医師の派遣状況⑤ 交通費の支給状況

	医師会数	割合
支給あり	6	75.0
支給なし	2	25.0
合計	8	100.0

参考資料 21 医師の派遣状況⑤-1 交通費支給基準

	医師会数	割合
実費支給	6	100.0
定額支給	0	0.0
合計	6	100.0

参考資料 22 医師の派遣状況⑤-2 交通費支給者

	医師会数	割合
開催自治体	3	50.0
医師会	1	16.7
その他	2	33.3
合計	6	100.0

参考資料 23 RWC2019 の医療体制（テロ災害対策含む）に関する情報の十分な提供（組織委→医師会）

	医師会数	割合
積極的に十分な情報提供があった	7	36.8
医師会の方から問い合わせをすれば回答がある程度	6	31.6
ほとんど情報提供はなかった	6	31.6
合計	19	100.0

参考資料 24 RWC2019 の医療体制（テロ災害対策含む）に関する情報の十分な提供（開催自治体→医師会）

	医師会数	割合
積極的に十分な情報提供があった	10	52.6
医師会の方から問い合わせをすれば回答がある程度	5	26.3
ほとんど情報提供はなかった	4	21.1
合計	19	100.0

参考資料 25 試合中の緊急時に備え、貴会では、組織委員会や開催自治体との間で情報連絡体制を構築したか

	医師会数	割合
自治体・組織委員会いずれとも構築した	6	31.6
自治体のみと構築した	3	15.8
組織委員会のみと構築した	1	5.3
特に構築しなかった	9	47.4
合計	19	100.0

参考資料 26 どのような情報連絡体制を構築していたか

	医師会数	割合
緊急時の連絡先(担当者や連絡先等)を把握した	8	80.0
いかなる事態が起きたら、どのような情報を連絡してもらうかなど、具体的に決めていた	2	20.0
合計	10	100.0

参考資料 27 具体的に決めていた連絡事項

連絡をおこなうタイミング	・医師会病院と県立病院の救急部長が救急本部で待機 ・大会開催当日、随時連絡を取り合った
連絡する情報の内容	・実況を全て ・傷病者発生状況、医療圏内の傷病者情報
情報の伝達先	・各後方支援病院 ・医療機関、組織委員会、自治体、医療救護班
情報の連絡手段(SMS、LINE、MLなど)	・ML ・携帯電話、ハザードトーク、グーグルドライブ、LINE等

参考資料 28 「大規模イベント医療・救護ガイドブック」の内容や量の適切さ

	医師会数	割合
ちょうど良い	13	68.4
多い	1	5.3
少ない	0	0.0
どちらともいえない	1	5.3
わからない	3	15.8
無回答	1	5.3
合計	19	100.0

参考資料 29 「大規模イベント医療・救護ガイドブック」への意見や要望

・この資料については、今回の照会で知りました。できれば、事前に配布等していただければ、有用な資料になったと思われます。 ・東京2020大会前の研修にもぜひ活用してほしい ・コンパクトにまとめられていて、ガイドブックとしては丁度良い。根底にある悪意の有無で対応が変わるかもしれないので色分けなどを行ってはどうか。 ・必要最低限な情報がコンパクトにまとまっている
--

参考資料 30 日本医師会「CBRNE テロ対策研修」の内容や量の評価

	医師会数	割合
ちょうど良い	11	57.9
多い	1	5.3
少ない	0	0.0
どちらともいえない	1	5.3
わからない	5	26.3
無回答	1	5.3
合計	19	100.0

参考資料 31 日本医師会「CBRNE テロ対策研修」への意見や要望

- ・知識としては必要なのかもしれないが、どれも未経験なのでどちらともいえない。
- ・この研修については、会として参加できませんでした。今後においても、再度の開催をお願いいたします。
- ・東京2020大会前にも開催してほしい
- ・様々な視点で、講義を受けることが出来、有効であったと思われる

参考資料 32 日本医師会「マスギャザリングセミナー」の内容や量の評価

	医師会数	割合
ちょうど良い	11	57.9
多い	1	5.3
少ない	0	0.0
どちらともいえない	1	5.3
わからない	5	26.3
無回答	1	5.3
合計	19	100.0

参考資料 33 「ワンストップ窓口」の仕組みについて

	医師会数	割合
窓口となる連絡先や利用方法等について十分理解していた	11	57.9
窓口となる連絡先は把握していたが、利用方法等はよくわからなかった	3	15.8
窓口となる連絡先を知らなかった	3	15.8
無回答	2	10.5
合計	19	100.00

参考資料 34 ワンストップ窓口についての意見・要望

継続希望	・よい取り組みと思われます ・継続してほしい ・東京2020大会のような大規模イベント開催時には今後も設置してほしい
周知について	・現場の医療体制を補完する上から、制度の周知については、現場の医療体制を構築(調整)する前に、早めにしていただければ、より有用と思われます。 ・ワンストップ窓口は有用と考えるが、日医のHP等から連絡先が入手できるよう明示されると周知を行いやすくなるのではないか。
その他	会場内の情報は、組織委員会がクローズにしていたようです。

参考資料 35 ショートメールサービス（SMS）による医師会間の情報共有システムへの意見・要望

継続希望	・有効な手段のひとつだと思う。継続希望。 ・RWC開催中は利用することはなかったが、上記と同様に今後も設置を希望する ・リアルタイムに情報を共有することは大切であり、今後も利用できるシステムだと思われる
周知について	・この制度については、承知しておりませんでした。万一の際、迅速な情報提供の手段として有用と思われますので、周知をお願いいたします。
その他	・開催県・市自治体の医療バックアップグループに県医師会および市医師会より代表者を派遣していたので本システムには全員が参加していなかった ・マスギャザリング災害が万が一、起こった時には、現場は混乱しています。このような混乱の中で、情報共有する仕組みをお考え下さい。(現場救急医療体制を崩さずに、まずは、現場視察され、その担当者の方から他都市へ情報発信して頂くなど) ・何も起きなかったので有用性の判断ができない。 ・使用することがありませんでした。

参考資料 36 WC2019 大会に医療チームを派遣もしくは、自身が参加するにあたって、不安や心配に感じたこと

外国人 対応	・会員からは通訳等の課題が指摘されていましたが、特段のトラブル等はありませんでした。 ・外国人観光客来訪に当たり救急救護の際の言語に不安があった(県が無料でタブレット端末の自動通訳を契約し、医療従事者全員が使用可能な状態であったが不安はあった)
組織委・ 自治体と の関係	・組織員会、自治体からの情報の提供等、連絡はこちらから連絡しなければならなかった。特に組織委員会からは嫌みともとれる反応があった。 ・医療関係に精通していない大会実行機関との認識の共有が完全ではなかった。 ・スタジアム内の救護は別団体(日本ラグビー協会)が行っており、会場内外の連絡網も構築されていなかったおかしな体制でした。スタジアム内の救護本部との連携ぜひ必要。
感染症 対策	伝染病対策
マスギャ ザリング	・マスギャザリングでの事故等が懸念されたが特になかった。
CBRNE 対応	・CBRNE対応について、今後どこまで医師会医療班がかかわっていくのか、方向性を知りたい。募集にあたり、事前研修などが必要になってくると思われる。

参考資料 37 その他問題点や今後の課題について

感染症対策	・新興感染症に関する対策が心配。 ・伝染病対策
災害医療	受け入れ病院等へのCBRNE災害の教育及び訓練並びに同災害時の体制整備が必要ではないかと考える。
組織委、自治体との関係	・中央組織委員会の縛りが強く、末端現場で課題解決が遅かったり、積み残しがあった ・開催地の組織委員会地域支部や自治体の考え方によって、都道府県医師会の関与が異なるようなので、統一した形ができれば良いと思います。
医師の確保	・医療資源の少ない地方開催のマスギャザリングイベントでは、事前の医療体制構築が重要である。 ・出務協力して頂ける医師の確保が問題。協力出来る時間帯がある。
その他	・RWC2019大会を経験した結果は、Q8及びQ9のとおりでしたが、今後の大会等への備えとして、良い経験になりました。 ・開催地が市であり、県としての立ち位置に戸惑いがあった。

6.3.2 オリパラ 2020 への医師会の関与状況

参考資料 38 医師会の種別

	医師会数
都道府県医師会	3
郡市医師会	2
合計	5

参考資料 39 オリパラ 2020 開催協議体への参加の有無

	医師会数
参加している	4
参加していない	1
合計	5

参考資料 40 オリパラ 2020 開催協議体への参加者（複数回答）

	医師会数
会長	2
副会長	1
理事、常任理事	3
その他	1
全体	4

参考資料 41 オリパラ組織委員会や開催自治体等からの協力依頼の状況

	協力依頼 あり	協力依頼 なし	未定	無回答	計
大会救護所への医師派遣	5	0	0	0	5
多数傷病者発生時の医療支援	3	0	1	1	5
熱中症対策	3	1	1	0	5
感染症対策	3	1	1	0	5
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	3	1	1	0	5
上記以外の事項に関する依頼	3	1	1	0	5

参考資料 42 協力の依頼元（複数回答）

	組織委員会	自治体	その他	全体
大会救護所への医師派遣	2	3	1	5
多数傷病者発生時の医療支援	1	2	1	3
熱中症対策	1	2	1	3
感染症対策	1	2	1	3
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	1	2	1	3
上記以外の事項に関する依頼	1	2	1	3

参考資料 43 具体的な依頼内容

大会救護所への医師派遣	・選手対応の医師3名（男1、女2）の派遣依頼 ・医師の配置等 ・組織委員会が対応しない観客に対する医療救護（ロードレース沿道他） ・観客用メディカルスタッフの募集並びに派遣
多数傷病者発生時の医療支援	現在、医療救護検討部会にて検討中
熱中症対策	現在、医療救護検討部会にて検討中
感染症対策	現在、医療救護検討部会にて検討中
CBRNEテロ災害発生時の医療支援	現在、医療救護検討部会にて検討中
上記以外の事項	・外国人医療対策 ・医療救護検討部会への参画。メディカルスタッフに係る連絡調整。

参考資料 44 オリパラ 2020 開催に関して組織委や開催自治体等への要望実施の有無

	医師会数
すでに要望した	2
これから要望する予定である	1
今のところ要望していない(予定もない)	1
合計	4

参考資料 45 オリパラ 2020 開催に関する要望先

	医師会数
組織委員会	2
自治体	3
その他	1
合計	3

参考資料 46 どのような要望を行った(行う予定)か

・マラソン競技開始時間について、タバコ対策、スポーツを通じた健康 ・必要な予防接種を受けられる体制について ・メディカルスタッフ研修の視察 ・これから検討
--

参考資料 47 オリパラ 2020 試合会場付近の救護所への医師派遣予定

	医師会数
医師会から医師を派遣することが決まっている	1
医師会から医師を派遣する「予定」である	2
医師会からの派遣は「未定」である	1
医師会から派遣する予定はない	0
合計	4

参考資料 48 オリパラ 2020 への医療チーム派遣、自身が参加することについての不安や心配事など

人員体制の確保	・医療チーム構成員の確保(ロードレース沿道全域にわたる医療救護活動、医療機関等の医療資源が不足する地域) ・日常の救急体制の確保 ・大規模イベント時の医療体制の支援 ・早朝・深夜の移動手段
感染症対策	・感染症対策 ・感染症について、状況により十分な対応ができるかどうか 不安に感じられる
テロ対策	・不測の事態(テロ・多数傷病者)への対応。 ・テロ対策について、状況により十分な対応ができるかどうか不安に感じられる
熱中症対策	熱中症対策
外国人医療対策	外国人医療対策
関係団体とのコミュニケーション	ラグビーワールドカップ等、組織委員会、開催自治体からの要請等がない事。

参考資料 49 日本医師会への要望

提供する医療に見合う対価の保障	・会場付近の診療所に大会期間中の診療時間の延長の協力を求める予定である。協力いただく診療所のご負担を少しでも減らせるよう、時間外加算の要件を緩和。 ・医療チームに対する報酬が組織委員会より支払われない点 ・医療は開催コマーシャル、経済広報等などに比べあと回しにされている様に感じる。ボランティアと同等に感じる。
その他	・緊急情報を共有できる全国の連絡網を構築してほしい。 ・当初から競技会場になっている種目があったが、それに関する情報提供はなかった。そのようななか、新たに競技が追加決定した。組織委員会からは医師の派遣依頼があるが、その前段階で開催地自治体が担う観客の救護・医療体制については、サッカー会場の責任者である大学病院ならびに開催地医師会である市医師会の担当役員レベルで打ち合わせを行っており、協力体制はできている。開催地医師会主催の委員会が立ち上がり、3月上旬に初会合を行うため、これからより具体的に協議し、役割などが明確になると思われる。

6.4 調査票

【都道府県医師会・都市医師会共通】

2020年1月

日本医師会総合政策研究機構

ラグビーワールドカップ2019（RWC）における医療体制上の課題 に関する調査票

回答日：_____

医師会名：_____

（事務局担当者：_____）

設問ⅠはRWC2019に関するご質問、設問Ⅱはオリパラ2020に関するご質問です。設問Ⅰは、RWC2019会場の立地する医師会すべてに対するもので、設問Ⅱは、RWC2019会場の立地する医師会のうち、当該会場がオリパラの競技場としても指定されている医師会のみへのご質問です（表1）。

表1 調査の設問と対象

調査対象	設問Ⅰ：RWC2019	設問Ⅱ：オリパラ2020
都道府県 医師会	北海道、岩手、埼玉、東京、神奈川、静岡、 愛知、大阪、兵庫、福岡、大分、熊本	北海道、埼玉、東京、 神奈川、静岡
都市 医師会	札幌市(北海道)、釜石(岩手)、熊谷市(埼玉)、調布 市(東京)、横浜市(神奈川)、磐田(静岡)、豊田加茂 (愛知)、河内(大阪)、神戸市(兵庫)、福岡市(福岡)、 大分市・大分都市・大分東(大分)、熊本市(熊本)	札幌市(北海道) 調布市(東京) 横浜市(神奈川)

I. RWC2019 に関するご質問

Q1 RWC 組織委員会や開催自治体等からの協力依頼

以下１～６の事項について、組織委員会や開催自治体等から協力依頼はありましたか。①②は a～c のうち該当するものに○印を、③には具体的な依頼内容についてご教示ください。なお、協力依頼は文書口頭を問いません。

1. 大会救護所への医師派遣

- ① 協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ② どこからの依頼であったか（a.組織委員会／b.自治体／c.その他（ ））
- ③ 具体的な依頼内容

2. 多数傷病者発生時の医療支援

- ① 協力依頼の有無 (a.有／ b.無)
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容 [

3. 熱中症対策

- ① 協力依頼の有無 (a.有／ b.無)
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容 [

4. 感染症対策

- ① 協力依頼の有無 (a.有／ b.無)
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容 [

5. CBRNE テロ災害発生時の医療支援

- ① 協力依頼の有無 (a.有／ b.無)
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容〔

6. 上記以外の事項に関する依頼

- ① 協力依頼の有無 (a.有／ b.無)
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容 [

Q2 貴会の協力状況

前問1～6で協力依頼「a.有」を回答した方にお尋ねします。前問「協力依頼」に対する貴会の協力状況について、a～cのうち該当するものに○印をつけてください。「c 協力しなかった（できなかった）」場合には、その理由についても伺えますと幸いです。（例：人材不足など）

1. 大会救護所への医師派遣

①協力状況

a.全面的に協力した／b.一部協力した／c.協力しなかった(できなかった)

②協力しなかった（できなかった）理由 []

2. 多数傷病者発生時の医療支援

①協力状況

a.全面的に協力した／b.一部協力した／c.協力しなかった(できなかった)

②協力しなかった（できなかった）理由 []

3. 熱中症対策

①協力状況

a.全面的に協力した／b.一部協力した／c.協力しなかった(できなかった)

②協力しなかった（できなかった）理由 []

4. 感染症対策

①協力状況

a.全面的に協力した／b.一部協力した／c.協力しなかった(できなかった)

②協力しなかった（できなかった）理由 []

5. CBRNE テロ災害発生時の医療支援

①協力状況

a.全面的に協力した／b.一部協力した／c.協力しなかった(できなかった)

②協力しなかった（できなかった）理由 []

6. その他

①協力状況

a.全面的に協力した／b.一部協力した／c.協力しなかった(できなかった)

② 協力しなかった（できなかった）理由 []

次頁へ→

Q3. 組織委員会や自治体等から特に依頼はなかったが、自発的に、医師会独自の
 取り組みとして実施したものがありましたら、ご教示ください(例:研修など)。

[]

Q4. 大会期間中、ラグビー会場付近の救護所（観客用）に貴会から医師を派遣
 しましたか？

1. 派遣した→SQ1 へ
2. 派遣していない→Q5 へ

SQ1. 貴会からの医師の派遣状況について具体的にお教えてください。

1. 派遣場所			
競技場内	()ヶ所		
競技場外	()ヶ所		
2. 派遣人数（延べ）			
競技場内	医師 () 名		
競技場外	医師 () 名		
3. 救護所の配置状況			
競技場内	大会実施日	執務時間帯 (例11時～16時、 18時～22時)	医師の配置人数

次頁へ→

3. 救護所の配置状況			
競技場外	大会実施日	執務時間帯 (例11時～16時、 18時～22時)	医師の配置人数

4. 日当の支給状況	
支給の有無 (いずれかに○を)	1. あり 2. なし
支給「あり」の場合 ①支給基準と額 (いずれかに○を)	1. 時給 () 円／人 2. 日給 () 円／人
②支給者 (いずれかに○を)	1. 開催自治体 2. 医師会 3. その他

5. 交通費の支給状況	
支給の有無 (いずれかに○を)	1. あり 2. なし
支給「あり」の場合 ①支給基準と額 (いずれかに○を)	1. 実費支給 2. 定額支給 () 円／人
②支給者 (いずれかに○を)	1. 開催自治体 2. 医師会 3. その他

次頁へ→

Q5. 組織委員会や開催自治体との情報連絡

(1) 組織委員会から貴会へ、RWC2019の医療体制（テロ災害対策含む）に関する情報は十分に提供されましたか？

1. 積極的に十分な情報提供があった
2. 医師会のほうから問合せをすれば回答がある程度
3. ほとんど情報提供はなかった

(2) 開催自治体から貴会へ、RWC2019の医療体制（テロ災害対策含む）に関する情報は十分に提供されましたか？

1. 積極的に十分な情報提供があった
2. 医師会のほうから問合せをすれば回答がある程度
3. ほとんど情報提供はなかった

(3) 試合中の緊急時に備え、貴会では、組織委員会や開催自治体との間で情報連絡体制を構築していましたか？

1. 自治体・組織委員会いずれとも構築した（SQ1 へ）
2. 自治体のみと構築した（SQ1 へ）
3. 組織委員会のみと構築した（SQ1 へ）
4. 特に構築しなかった

→ SQ1（1～3のいずれかに「○」と回答した方対象）

どのような情報連絡体制を構築していたか、教えてください（複数回答可）。

1. 緊急時の連絡先（担当者や連絡先等）を把握した
2. いかなる事態が起きたら、どのような情報を連絡してもらうかなど、具体的に決めていた（下表にご記入ください）

連絡をおこなうタイミング	
連絡する情報の内容	
情報の伝達先	
情報の連絡手段 (SMS、LINE、ML など)	

次頁へ→

Q6. 日本医師会の取組みに関する意見や要望

日本医師会では、RWC2019 開催にあたり、「大規模イベント医療・救護ガイドブック」の発行、「CBRNE テロ対策研修」や「マスギャザリングセミナー」の実施、CBRNE 専門家の助言・支援を提供する「ワンストップ窓口」の設置、「ショートメールサービスによる医師会間の情報共有システム」の構築など様々な取組みを実施してまいりました。これらの取組みについて、a～e の該当するものに○印を、カッコ内にはご意見やご要望についてお聞かせください。なお、添付の「参考資料」1～4をご参照ください。

(1) 「大規模イベント医療・救護ガイドブック」について（参考資料1）

本ガイドブックでは、大規模イベントの医療対策で最低限知っておくべきことを厳選した内容としました。内容や量は適切でしたか？

①内容や量の適切さ（いずれか該当するものに○印を）

(a.ちょうど良い/b.多い/c.少ない/d.どちらともいえない/e.わからない)

②意見・要望

()

(2) 日本医師会「CBRNE テロ対策研修」について（参考資料2）

①内容や量の適切さ（いずれか該当するものに○印を）

(a.ちょうど良い/b.多い/c.少ない/d.どちらともいえない/e.わからない)

②意見・要望

()

(3) 日本医師会「マスギャザリングセミナー」について（参考資料3）

①内容や量の適切さ（いずれか該当するものに○印を）

(a.ちょうど良い/b.多い/c.少ない/d.どちらともいえない/e.わからない)

②意見・要望

()

(4) CBRNE 専門家の助言・支援を提供する「ワンストップ窓口」(参考資料4)

RWC 大会期間中、CBRNE 災害やその疑いがあるときの相談窓口です。会場外の医務室執務者、会場周辺医療機関、開催地の都市医師会役員は「窓口」に連絡すると、初期対応(安全確保や処置等)について専門家の助言・支援を受けることができます。

①「ワンストップ窓口」の仕組みについて(詳細:参考資料4)

- a.窓口となる連絡先や利用方法等について十分理解していた
- b.窓口となる連絡先は把握していたが、利用方法等はよくわからなかった
- c.窓口となる連絡先を知らなかった
- d.その他()

②意見・要望

(5)ショートメールサービス(SMS)による医師会間の情報共有システム

本システムは、RWC 開催地となる都道府県医師会および会場立地の都市医師会の担当役員等の電話番号を事前に登録し、大会期間中にマスギャザリング災害等が発生した時には、日本医師会から登録者に対して SMS を一斉送信して迅速に情報共有を図る仕組みです。ご意見やご要望について、お聞かせください。

次頁へ→

Q7. RWC2019 大会の医療体制の確保のために、地域の医療資源が不足するなど日常の医療体制（特に救急医療）への影響が懸念されていました。実際のところ、開催に伴い日常の医療体制（特に救急医療）に何らかの支障が生じた事例がございましたら、教えてください。（例：住民用の救急車が足りなくなった）



Q8. RWC2019 大会に医療チームを派遣もしくは、ご自身が参加するにあたって、不安や心配に感じられたことがありましたら、教えてください。



Q9. その他 RWC2019 大会中に生じた問題点や、同規模大会を実施する際の今後の課題等がございましたら、教えてください。



※次頁以降は、東京オリンピック・パラリンピック 2020 開催地（北海道、埼玉、東京、神奈川、静岡）の医師会宛てのご質問です。上記以外の医師会につきましては、調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

本ページ以降は、北海道医師会および札幌市医師会、埼玉県医師会、東京都医師会および調布市医師会、神奈川県医師会および横浜市医師会、静岡県医師会へのご質問です。

Ⅱ. 東京オリンピック・パラリンピック 2020（オリパラ）に関するご質問

Q1. 貴会は、オリパラ 2020 開催に関する協議体（推進委員会、準備委員会など）に参加していますか？

1. 参加している→協議体の名称（ ）
参加者（ ）

2. 参加していない

Q2. オリパラ組織委員会や開催自治体等からの協力依頼

以下1～6の事項について、組織委員会や開催自治体等から協力依頼はありましたか。①②は a～c のうち該当するものに○印を、③には具体的な依頼内容についてご教示ください（回答日時点）。なお、協力依頼は文書口頭を問いません。

1. 大会救護所への医師派遣

- ① 協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容 []

2. 多数傷病者発生時の医療支援

- ① 協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ② どこからの依頼であったか(a.組織委員会／b.自治体／c.その他())
- ③ 具体的な依頼内容 []

次頁へ→

3. 熱中症対策

- ① 協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ② どこからの依頼であったか（a.組織委員会／b.自治体／c.その他（ ））
- ③ 具体的な依頼内容 「 」

4. 感染症対策

- ① 協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ② どこからの依頼であったか（a.組織委員会／b.自治体／c.その他（ ））
- ③ 具体的な依頼内容 []

5. CBRNE テロ災害発生時の医療支援

- ①協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ②どこからの依頼であったか（a.組織委員会／b.自治体／c.その他（ ））
- ③具体的な依頼内容（ ）

6. 上記以外の事項に関する依頼

- ①協力依頼の有無（a.有／ b.無）
- ②どこからの依頼であったか（a.組織委員会／b.自治体／c.その他（ ））
- ③具体的な依頼内容（ ）

Q3. オリパラ 2020 開催に関して、貴会から組織委員会や開催自治体等に対して、何らかの要望をしましたか？（あてはまるもの 1 つに○印）

1. すでに要望した
2. これから要望する予定である
3. 今のところ要望していない（予定もない）

→ SQ1 (1～2のいずれかに「○」と回答した方対象)

- ①要望先（a.組織委員会／ b.開催自治体／ c.その他（ ））
- ②どのような要望を行なった（行なう予定）か、お教えてください。

次頁へ→

Q4. オリパラ 2020 試合会場付近の救護所に、貴会から医師を派遣する予定はありますか？（回答日時点でお答えください）

1. 医師会から医師を派遣することが決まっている
2. 医師会から医師を派遣する「予定」である
3. 医師会からの医師の派遣は「未定」である
4. 医師会から医師を派遣する予定はない

Q5. オリパラ 2020 に医療チームを派遣もしくは、ご自身が参加するにあたって、不安や心配に感じられることがありましたら、お教えてください。



Q6. オリパラ 2020 の医療体制等について問題意識に感じていることや、日本医師会に対する要望等がございましたら、お教えてください。



アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。